LUMIX

Panasonic

デジタルカメラ
取扱説明書

品番 DMC-FZ1

上手に使って上手に節電

保証書別添付

LEICA
DC VARIO-ELMARIT

このたびは、デジタルカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

VQT0A85-1

もくじ

はじめに

準備

撮る • 基本

撮る • 応用

見る

編集する

使いこなす

その他

安全上のご注意（危険） 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です）**

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠危険

バッテリーを分解、加工（はんだ付けなど）、加圧、加熱、火中投入などをしない

バッテリーを炎天下（特に真夏の車内）など、高温になるところに放置しない

バッテリーの端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

禁　止

液漏れ・発熱・発火・破裂につながります。

- 不要（寿命）になったバッテリーについては108 ページをご参照ください。
- ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。
- 万一、液漏れが発生し、液が手や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

専用の充電器で充電する

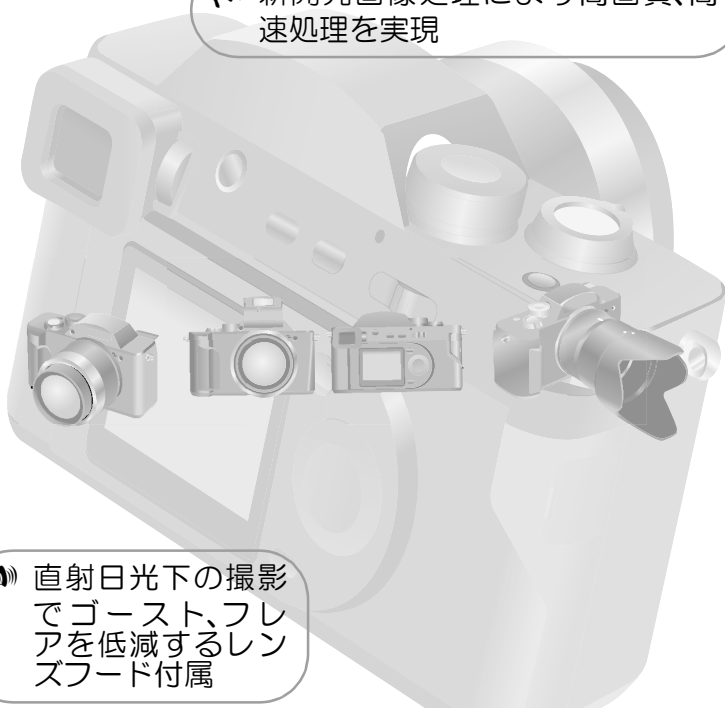
指定以外の充電器で充電すると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

安全上のご注意の警告、注意は P99 ～ P106 ページを参照してください。

特長

全域 F2.8　高倍率光学１２倍ズーム
ライカ DC バリオ・エルマリートレンズ搭載
（35 ミリ換算で３５ mm ～４２０ mm をカバー）

超望遠でも手ぶれを軽減
光学手ぶれ補正機能搭載

新開発画像処理により高画質、高速処理を実現

直射日光下の撮影でゴースト、フレアを低減するレンズフード付属

秒４コマ、最大７コマの高画質連写機能搭載
かんたんモードにより初心者でもかんたんに撮影可能

モードダイヤル搭載

本機には撮影シーンに合わせて使用できるモードダイヤルがあります。
お好みのモードを選んで、撮影のバリエーションを広げてお楽しみください。
モードダイヤルはゆっくり確実に回してください。

:ポートレート(P41)
ポートレート写真を撮りたい人はこのモードに。

:スポーツ(P42)
屋外でのスポーツシーンなど、動きの速い場面を撮影するときに。

:マクロ(P40)
被写体をアップにして撮りたいときに。

:流し撮り(P43)
「ランナーや車を躍動感のある写真にしたい」、そんなお客様の要望にもお応えします。

:通常撮影(P28)
通常はこのダイヤルに合わせて撮影します。

:夜景ポートレート(P45)
美しい夜景をバックに記念撮影したいときに。

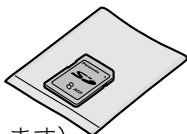
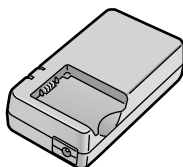
:かんたんモード(P38)
初心者にオススメなモードです。

:再生(P64)
撮った画像を再生します。

:動画(P46)
音声付き動画を撮影します♪

付属品

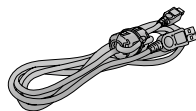
本機をご使用いただく前に、すべての付属品が入っていることをご確認ください。記載の品番は 2002 年 10 月現在のものです。

■ SD メモリーカード（8MB）
RP-SD008
(本文中では
カードと表記します）

■ バッテリーパック
DMW-BM7
（本文中では
バッテリーと表記します）

■ バッテリーチャージャー/AC アダプター
DE-928A
（本文中では
AC アダプターと表記します）

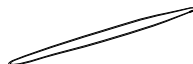
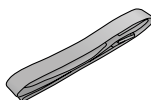
■ 電源コード
K2CA2DA00009

■ DC コード
K2GH2DB00003

■ A/V ケーブル
K1V204C10001

■ USB 接続ケーブル
VEK0A22

■ CD-ROM

■ レンズキャップ
VYK0M30

■ レンズキャップひも
VFC3917

■ ストラップ
VFC3916

■ レンズフード
VGK2826

■ レンズフードアダプター
VYQ2583

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

使う前に （まずお読みください）

事前に必ずためし撮りをしてください（P12 のクイックガイドを参照してください）
大切な撮影（結婚式など）は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影や録音されていることを確かめてください。

撮影内容の補償はできません
本機およびカードの不具合で撮影や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

著作権にお気を付けください
あなたが撮影や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気を付けください。

カードの画像について
- 以下の場合、本機で再生できない場合があります。
  - 他機で記録、作成した画像
  - パソコンで編集された画像
- 本機で記録、作成した画像は他機で再生できない場合がありますので、あらかじめお確かめください。

本書内の写真、イラストについて
本書内の写真は、説明のためスチル写真から合成しています。また本書内の製品姿図･イラスト･メニュー画面などは実物と多少異なりますが、ご了承ください。

本機で使用できるカードは
SD メモリーカード、マルチメディアカードです。
- 本書では SD メモリーカードとマルチメディアカードをカードと記載します。

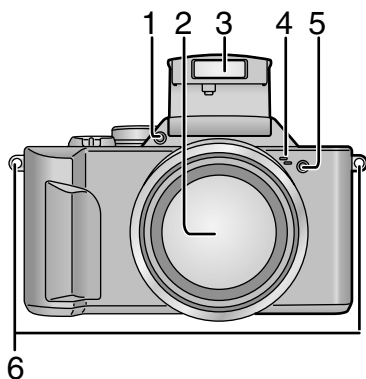
- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

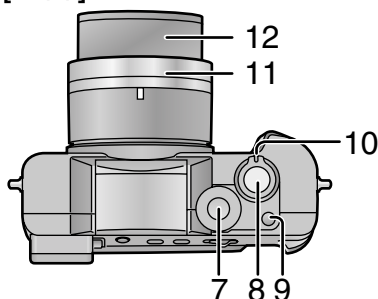
- SD：SD ロゴは商標です。
- Microsoft Windows は、米国 Microsoft Corporation の商標です。
- Macintosh、MacOS は Apple Computer Inc. の登録商標または商標です。
- LEICA/ ライカはライカマイクロシステム IRGmbH の登録商標です。
- ELMARIT/ エルマリートはライカカメラ AG の登録商標です。
- QuickTime および QuickTime ロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTime は米国および他の国々で登録された商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。

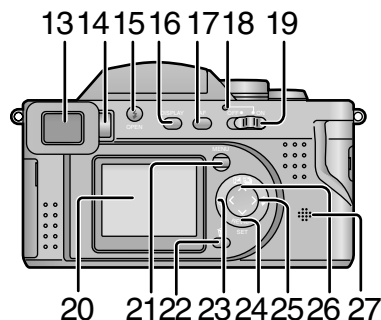
各部の名前

[前面]

[天面]

[後面]

[前面]

1 フラッシュ調光センサー(P35)
2 レンズ
3 フラッシュ発光部
4 マイク(P46, P54, P80)
5 セルフタイマーランプ(P36)
6 ストラップ取付け部(P20)

[天面]

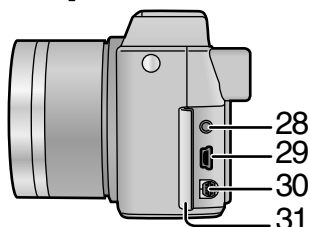
7 モードダイヤル(P7)
8 シャッターボタン(P28)
9 単写 / 連写切換ボタン(P37)
10 ズームレバー(P33, P58)
11 レンズリング(P22, P93)
12 レンズ鏡筒(P30)

[後面]

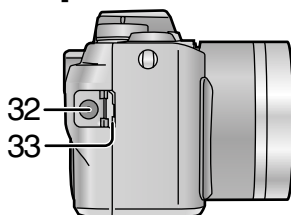
13 ファインダー(P27)
14 視度調整ダイヤル(P27)
15 フラッシュOPENボタン(P34)
16 DISPLAY ボタン(P27)
17 FOCUS ボタン(P57)
18 電源表示ランプ(P28)
19 電源 スイッチ(P28)
20 液晶モニター(P27, P95)
21 MENU ボタン(P24)
22 削除ボタン(P69)
23 ◀/セルフタイマー(P36)ボタン
24 ▼/REVIEW/SET(P32)ボタン
25 ▶/ フラッシュ(P34)ボタン
26 ▲/ 露出補正(P62)/ オートブラケット(P63)ボタン
27 スピーカー(P65)

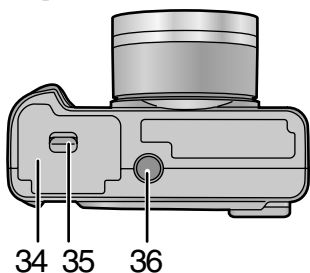
[左側面]

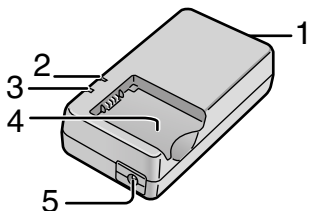
[右側面]

[底面]

[バッテリーチャージャー/ AC アダプター]

[左側面]

28 A/V OUT 端子(P88)
29 USB 端子(5pin)(P89)
30 SERIAL 端子(P81)
31 端子扉

[右側面]

32 DC IN 端子(P17)
33 DC IN 端子扉

[底面]

34 メモリーカード/バッテリー扉(P16, P18)
35 メモリーカード/バッテリー扉開レバー(P16, P18)
36 三脚取付け穴(P110)

[バッテリーチャージャー/ AC アダプター](P17)

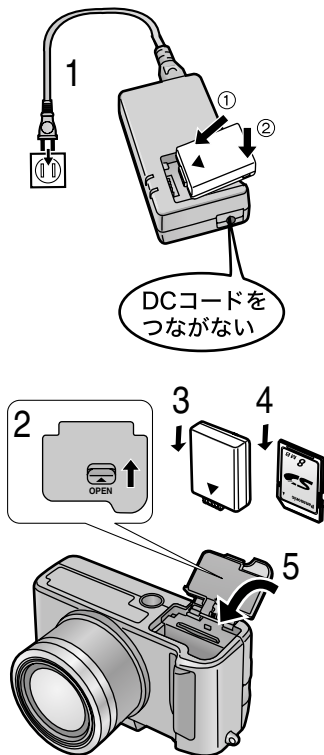
1 AC 入力端子 (AC IN 〜)
2 電源 [POWER] ランプ
3 充電 [CHARGE] ランプ
4 バッテリー装着部
5 DC 出力端子(DC OUT)

クイックガイド

機材を準備します。

●本機	●電源コード	●バッテリー	●カード	●AC アダプター

●電源スイッチが [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。

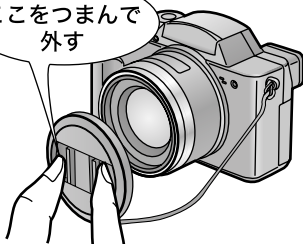
●フラッシュを閉じる。（P35）

■ 準備

1 バッテリーを充電する （P14）
- ●約 90 分で満充電完了です。（P15）

2 レバーをスライドさせメモリーカード / バッテリー扉を開ける

3 バッテリーを入れる （P16）

4 カードを入れる （P18）

5 メモリーカード / バッテリー扉を確実に閉じる

■ 撮影

6 レンズキャップを外す

●レンズキャップの付けかたは、P21を参照してください。

7 電源スイッチを [ON] にする

8 時計を設定する（P26）

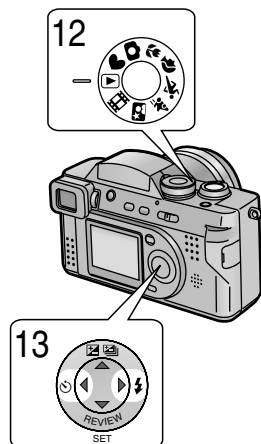
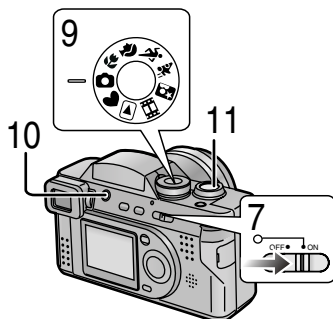
9 モードダイヤルを通常撮影モード [◉] にする

10 フラッシュ撮影する場合、[ϟ OPEN] ボタンを押してフラッシュを開ける（P34）

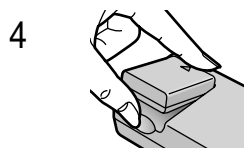
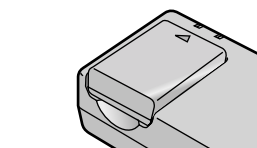
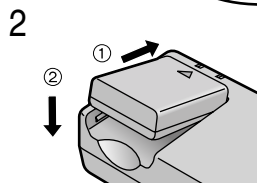
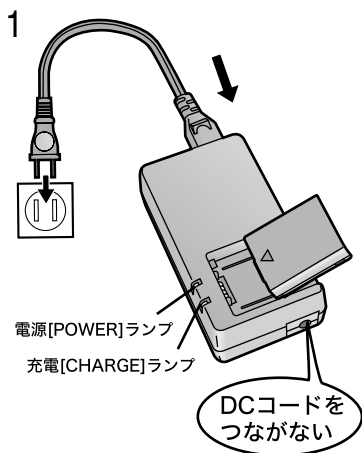
11 撮影する（P28）

■ 再生

12 モードダイヤルを再生 [▶] にする（P64）

13 ◀/▶ を押して見たい画像を表示する

お願い/ヒント

●満充電されたバッテリーを挿入して約1時間以上経過するとバッテリーを取り外して放置しても、約24時間は時計設定を記憶しています。
（十分に充電されていないバッテリーを挿入した場合は記憶時間は短くなることがあります）
しかしそれ以上時間が経過すると設定が消えてしまいますので、もう一度時計設定をし直してください。（P26）

バッテリーを充電する

バッテリーは充電すると使えるようになります。

1　電源コードを電源コンセントとAC入力端子に差し込む

●電源[POWER]ランプが点灯します。

2　バッテリーを付ける
①②の順番でカチッと音がするまで確実に取り付ける

●充電[CHARGE]ランプが点灯し、充電が始まります。

3　充電[CHARGE]ランプが消灯で満充電完了

●約90分で満充電完了です。

4　バッテリーをACアダプターから外す

お願い/ヒント

- DCコードがACアダプターにつながっていると、充電できません。
- 充電完了後、電源コンセントから外してください。
- 使用後、充電中や充電後はバッテリーが温かくなります。また使用中はカメラ本体も温かくなりますが異常ではありません。
- **本機専用のACアダプターとバッテリーを使用してください。**
- **ACアダプターは分解、改造しないでください。**
- **ACアダプターは海外でも使うことができます。(P111)**

バッテリーの状態について

残量表示が液晶モニター/ファインダーに表示されます。(AC アダプターで電源を供給しているときは表示されません)

:バッテリーの容量は十分です。

:残量がやや少なくなっています。

:残量が少なくなっています。

:バッテリーを充電、または交換してください。

■充電時間と撮影可能時間について

(撮影条件)
- 温度 25 ℃ / 湿度 60%
- 30 秒間隔で 1 回記録、フラッシュを 2 回に 1 回発光
- 付属のバッテリー、SD メモリーカード使用

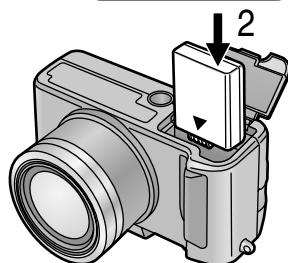
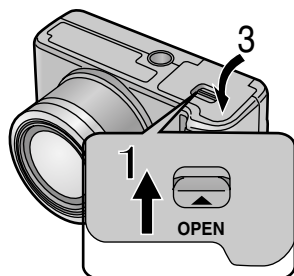
充電時間	連続撮影時間(枚数)	再生時間
約 90 分	液晶使用時 約 100 分(200 枚相当)	液晶使用時 約 120 分
	ファインダー使用時 約 120 分(240 枚相当)	

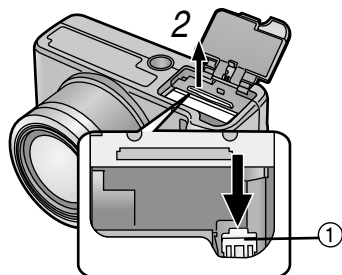
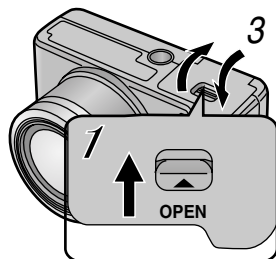
撮影時間(枚数)/ 再生時間は条件によって多少変わります。
別売のバッテリーパック(DMW-BM7)の充電時間と撮影可能時間も同じです。

■充電する環境 / 充電エラーについて

- 充電は周囲の温度が 10 ～ 35 ℃(バッテリーの温度も同様)のところで行ってください。
- 充電が始まると、AC アダプターの充電 [CHARGE] ランプが点灯します。
  充電開始後、AC アダプターの充電 [CHARGE] ランプが点灯から約 1 秒サイクルの点滅になった場合は充電エラーです。
  その場合、AC アダプターを電源コンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、周囲の温度やバッテリーが低温または高温になっていないかを確認し、再度充電し直してください。
  再度充電してもまだ充電 [CHARGE] ランプが点滅する場合は、販売店にご相談ください。

バッテリーを入れる

[入れる場合]

[取り出す場合]

[準備]

- 電源スイッチが [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。(P35)

1 矢印の方向にレバーを動かして、メモリーカード / バッテリー扉を開ける

2 バッテリーをカチッとロックづめがかかるまで確実に奥まで入れる

3 メモリーカード/バッテリー扉を確実に閉じる

[バッテリーを取り出す]

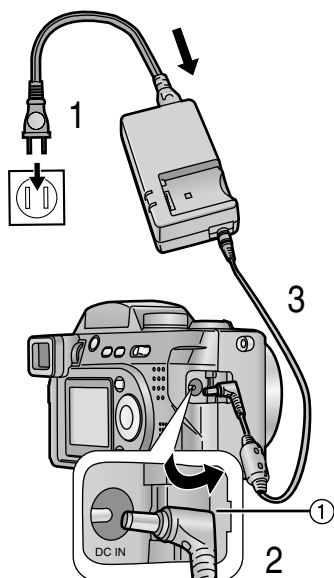
1 矢印の方向にレバーを動かして、メモリーカード / バッテリー扉を開ける

2 ロックづめ ① を矢印の方向に押して、バッテリーをまっすぐ引き抜く

3 メモリーカード/バッテリー扉を確実に閉じる

お願い/ヒント

- カメラを長期間使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。
- 満充電されたバッテリーを挿入して約1時間以上経過するとバッテリーを取り外して放置しても、約24時間は時計設定を記憶しています。(十分に充電されていないバッテリーを挿入した場合は記憶時間は短くなることがあります)しかしそれ以上時間が経過すると設定が消えてしまいますので、もう一度時計設定をし直してください。(P26)
- **カードのデータが破壊される可能性があるので、アクセス中はメモリーカード / バッテリー扉を開けないでください。**
- **付属のバッテリーは、本機専用です。本機以外で使わないでください。**

電源コンセントにつないで使う

ACアダプターを使って電源コンセントにつなぐと、バッテリーの消耗を気にせずに使えます。

[準備]
- 電源スイッチが [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。

1 付属の電源コードを電源コンセントとAC入力端子に差し込む

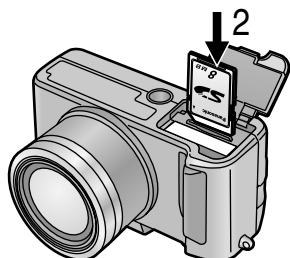
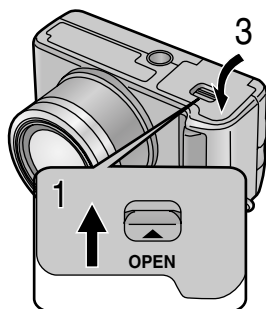
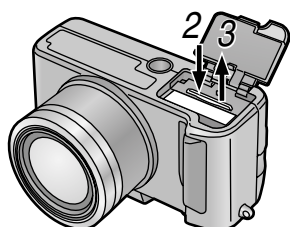
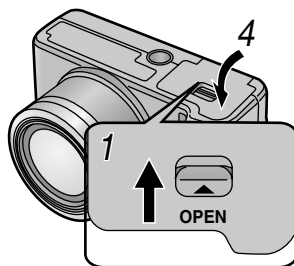
2 DC IN 端子扉 ① を開ける

3 付属のDCコードをカメラ本体の DC IN 端子と、AC アダプターの DC OUT 端子に図のように差し込む

準備

- 付属の DC コードを使用してください。それ以外の DC コードを使用すると、故障の原因になります。
- 使用中、本機が温かくなりますが、故障ではありません。
- AC アダプターは海外でも使うことができます。(P111)
- 必要がない場合は AC アダプターと DC コードを抜いておいてください。
- AC アダプターを接続してカメラ本体でバッテリーを充電することはできません。

カードを入れる

[入れる場合]

[取り出す場合]

[準備]
●電源スイッチが　[OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
●フラッシュを閉じる。(P35)

1　矢印の方向にレバーを動かして、メモリーカード / バッテリー扉を開ける

2　カードをカチッと音がするまで奥までしっかり入れる
●カードの向きを確認してください。
●カードの裏の接続端子部に触れないでください。

3　メモリーカード / バッテリー扉を確実に閉じる

[カードを取り出す]

1　矢印の方向にレバーを動かして、メモリーカード / バッテリー扉を開ける

2　カードをカチッと音がするまで押す

3　カードをまっすぐ引き抜く

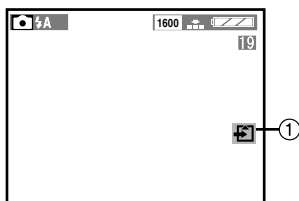
4　メモリーカード / バッテリー扉を確実に閉じる

お願い/ヒント

- メモリーカード / バッテリー扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出してから、もう一度入れ直してください。
- カードが入らないときは、カードの向きが正しいか確認してください。
- カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。(正規カード以外は使用しないでください)
- カードを奥まで入れないと、カードが壊れるおそれがあります。

カードについて

■ カードにアクセス中は･･･

カードにアクセス(認識 / 記録 / 読み出し / 消去など)中は、カードアクセス表示 ① が点灯します。

カードアクセス表示①が点灯しているときは、電源を切る行為やバッテリーを取り出したり、カードを抜いたりしないでください。
また AC アダプター使用時は DC コードを抜かないでください。
カードやカードの内容が破壊されたり、本体が正常に動作しなくなることがあります。

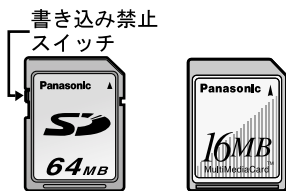
電気ノイズ、静電気、本機やカードの故障などによりカードのデータが壊れたり消失することがありますので、大切なデータは USB 端子などを使って、パソコン(P89)などにも保存してください。

■ SD メモリーカード(付属)とマルチメディアカード(別売)について

SD メモリーカードとマルチメディアカードは小型、軽量で、着脱可能な外部メモリーカードです。
SD メモリーカードはカードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備えています。(スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットはできなくなり、戻すと可能になります)

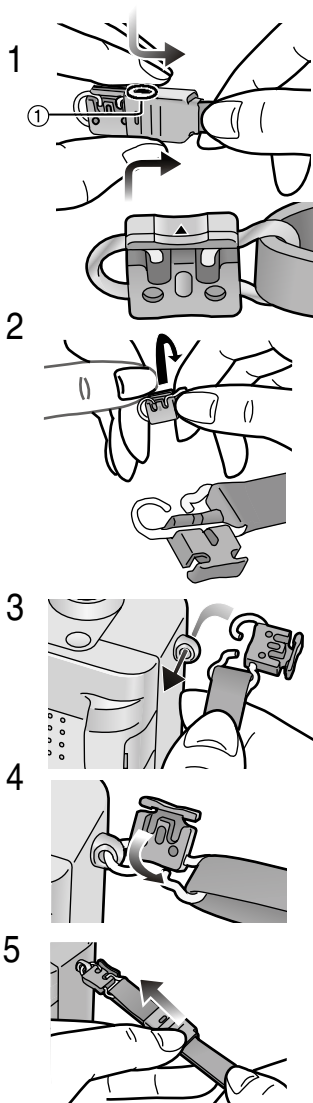
SD メモリーカード
- RP-SDH512(512MB)
- RP-SDH256(256MB)
- RP-SD128BJ(128MB)
- RP-SD064B(64MB)
- RP-SD032B(32MB)
- RP-SD016B(16MB)
- RP-SD008B(8MB)

マルチメディアカード
- VW-MMC16(16MB)
- VW-MMC8(8MB)

書き込み禁止スイッチ

記載の品番は 2002 年 10 月現在のものです。

- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。

準備

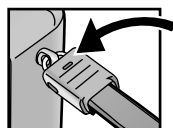
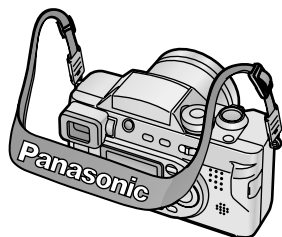
ストラップを付ける

1 ストラップ金具の黒いカバー部の両端 ① 部を押し込みながら金具に付属している黒いホルダーを完全に出す

2 金具に付属している黒いホルダーを矢印の方向に回す
- 黒いホルダーが金具から外れた場合は、再度取り付けてください。

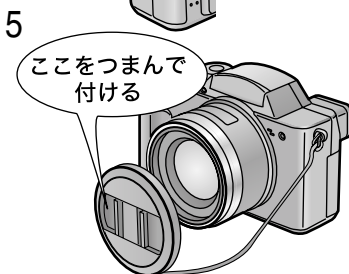
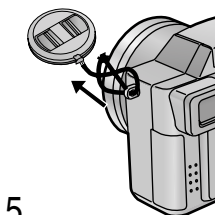
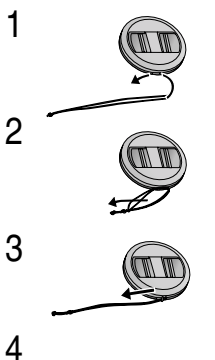
3 金具を本機のストラップ取付け部に通す

4 金具に付属している黒いホルダーをカチッとなるまで反対の方向に回す

5 ストラップ先端のカバー部を矢印の方向にスライドさせ、しっかりと止める

6 ねじれないように確認のうえ、もう一方も同じように付ける

必ずカバー部を最後までスライドさせてください。

- ストラップがしっかり付けられていることを、確認してください。

レンズキャップを付ける

電源を [OFF] にしているときや、撮影した画像の再生中は、レンズ面の保護のため、付属のレンズキャップを取り付けてください。

1 レンズキャップひもの先端をレンズキャップに通す

2 ひもの反対側をひもの輪の部分に通す

3 矢印の方向にしっかりと引っぱる

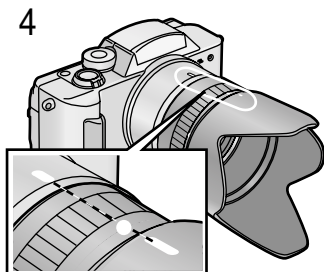
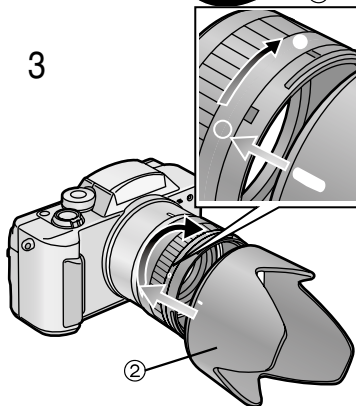
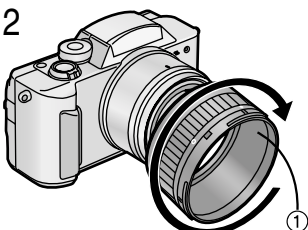
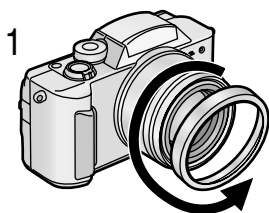
4 レンズキャップひもの先端をストラップ取付け部に通し、左図のように取り付ける

5 レンズキャップを付ける

準備

お願い/ヒント

- 本機の電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。
- レンズフード装着時はレンズキャップのひもを外し、レンズキャップのみを付けてください。

レンズフードを付ける

レンズフードを付けると以下の効果があります。

- 日差しの強い日中、逆光にゴーストやフレアを軽減する。
- 余分な光をさえぎり、より美しく撮れる。

[準備]

- 電源スイッチが　[OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。（P35）

1　レンズリングを外す

2　付属のレンズフードアダプター ① を付ける

- ○,● マークを外側にして付けてください。

3　付属のレンズフード ② を付ける

- レンズフードアダプターの ○ マークとレンズフードのマークを合わせて取り付け、レンズフードアダプターが回転しないようにしながら ● マークまで回し固定してください。

4　レンズフードとアダプターを回し、位置（本機のマークとレンズフードのマーク）を合わせる

- マークの位置が合っていないと、ケラレ現象(画面の端が暗くなる現象)が起きることがあります。

お願い/ヒント

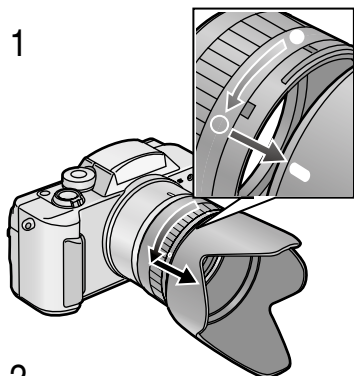
- レンズフードを付けたままで、フラッシュ撮影をするときはフラッシュ光がフードにさえぎられ、画面の下が暗く(ケラレ)なり、また自動調光もできなくなるので、レンズフードやレンズフードアダプターを外すことをおすすめします。
- レンズフード装着時はレンズキャップのひもを外し、レンズキャップのみを付けてください。また、レンズキャップがしっかり付いていることを確認してください。

■ 一時的にレンズフードを外して運ぶ場合

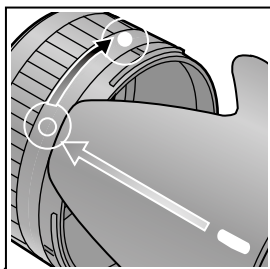
1

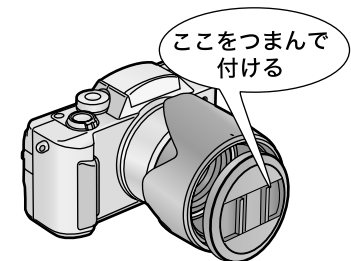
2

3

ここをつまんで
付ける

ここでは、レンズフードをカメラ本体に仮収納するときについて説明します。
仮収納した状態での撮影はしないでください。

[準備]
- 電源スイッチが　[OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。（P35）

1　レンズフードを外す

2　レンズフードの向きを逆にし、付ける

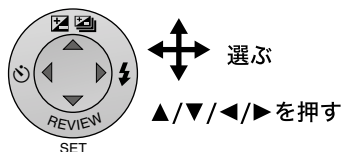
- レンズフードアダプターの ○ マークとレンズフードのマークを合わせて取り付け、右に回してください。

3　レンズキャップを付ける

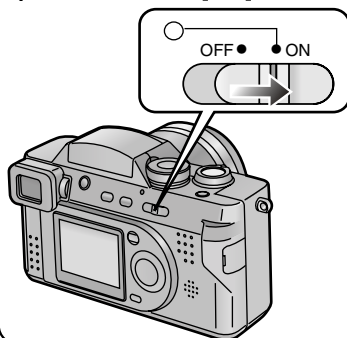
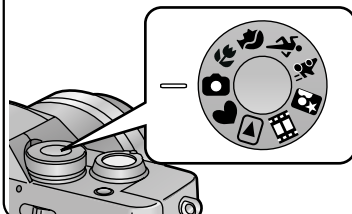
- レンズキャップがしっかり付いていることを確認してください。

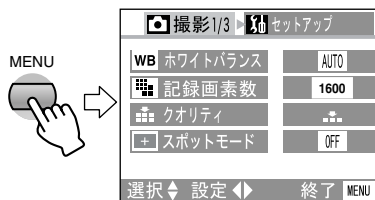
お願い/ヒント

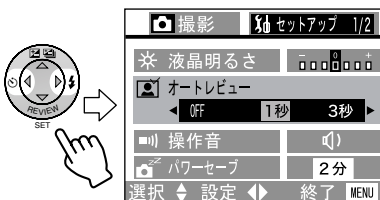
- レンズフード装着時はレンズキャップのひもを外し、レンズキャップのみを付けてください。
- レンズフード仮収納状態で、フラッシュをご使用になると調光ができなくなる場合があります。また、下側が黒くなる場合があります。このような場合は、レンズフードおよびレンズフードアダプターを外してご使用ください。

セットアップメニューを設定する

メニューの選びかた

●かんたんモードのメニューの設定方法については P38 をお読みください。

1 電源スイッチを[ON]にする

2 撮影モード（♥以外）または再生モードにする

3 [MENU]ボタンを押して、▶を押す

・セットアップメニューが表示されます。

4 ▲/▼で項目を選ぶ

5 ◀/▶で設定内容を選ぶ

6 [MENU]ボタンを押す

・メニュー画面が消えます。

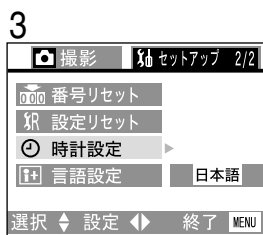
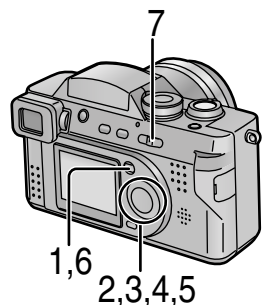
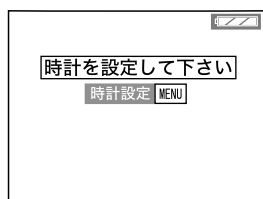
セットアップメニューについて

項目	設定内容
液晶明るさ / **ファインダー明るさ**	液晶(液晶モニターに表示されている場合)またはファインダー(ファインダー内に表示されている場合)の明るさを 7 段階に調整できます。
オートレビュー (撮影モードのみ)	• OFF: 自動的に表示されません。 • 1 秒 : 撮影後に撮影した画像が自動的に約 1 秒間表示されます。 • 3 秒 : 撮影後に撮影した画像が自動的に約 3 秒間表示されます。
操作音	● [大]: 操作音を大きくします。 ● [小]: 操作音を出します。 ● [消]: 操作音を消します。
パワーセーブ	• 2 分 /5 分 /10 分 : 設定した時間の間に何も操作しないと省電力モードになります。 • OFF: 省電力モードになりません。
番号リセット (撮影モードのみ)	ファイル番号をリセットします。ファイル番号 0001 から登録したい場合に設定します。
設定リセット (撮影モードのみ)	撮影設定またはセットアップ設定をリセットします。お買い上げ時の状態に戻しますが、時計設定とかんたんモードの設定内容は変わりません。
時計設定	日付や時計を変更するときに設定します。(P26)
言語設定	• 日本語 : メニュー画面を日本語表記にします。 • ENG: メニュー画面を英語表記にします
スピーカ音量 (再生モードのみ)	スピーカの音量を 7 段階に調整できます。
ビデオ出力 (再生モードのみ)	• NTSC: ビデオ出力を NTSC 方式にします。 • PAL: ビデオ出力を PAL 方式にします。(P111)

お願い/ヒント

- 番号リセットと言語設定はかんたんモードにも反映されます。
- オートレビューを[1秒]または[3秒]に設定しても、動画[ ]のときは、オートレビューされません。
- オートレビューを[OFF]に設定しても、連写、オートブラケット、音声付き静止画を記録したときはオートレビューされます。
- パワーセーブを解除するには、シャッターボタンを押すか、または電源スイッチを[OFF]にしてからもう一度[ON]にしてください。
- ACアダプター使用時、PC接続モード時、動画撮影/再生時、スライドショー中、携帯電話接続時は、パワーセーブは働きません。

準備

時計を設定する

お買い上げ時は時計設定はされていませんので、「時計を設定して下さい」というメッセージが表示されます。[MENU] ボタンを押すと設定メニューへジャンプするので、時計設定をしてください。
年は 2002 年から 2099 年まで設定できます。時刻は 24 時間表示です。

3

4,5

時計設定

2002.11. 1 12:58

年/月/日

選択 設定 終了 MENU

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▶ を押してセットアップメニューにする
- かんたんモード時は必要ありません。

3 ▲/▼ で[時計設定]を選び、▶ を押す

4 ▲/▼/◀/▶ で年月日と時刻を合わせ、「分」を設定したあとで ▶ を押す

5 ▲/▼ で[年/月/日]、[日/月/年]、[月/日/年]から表示の順番を選ぶ

6 [MENU] ボタンを2回押す
- メニュー画面が消えます。

7 一度電源を [OFF] にしてから再度 [ON] にして、設定通り表示されているか確認する

お願い/ヒント

- 満充電されたバッテリーを挿入して約1時間以上経過するとバッテリーを取り外して放置しても、約24時間は時計設定を記憶しています。(十分に充電されていないバッテリーを挿入した場合は記憶時間は短くなることがあります)しかしそれ以上時間が経過すると設定が消えてしまいますので、もう一度時計設定をし直してください。

液晶モニター/ファインダーの表示を切り換える

液晶モニター/ファインダーの表示は、[DISPLAY] ボタンを押すごとに以下のようになります。

- 液晶モニターが表示されているときは、ファインダーは消灯します。
  ファインダーが表示されているときは、液晶モニターは消灯します。

DISPLAY
ファインダー
液晶モニター

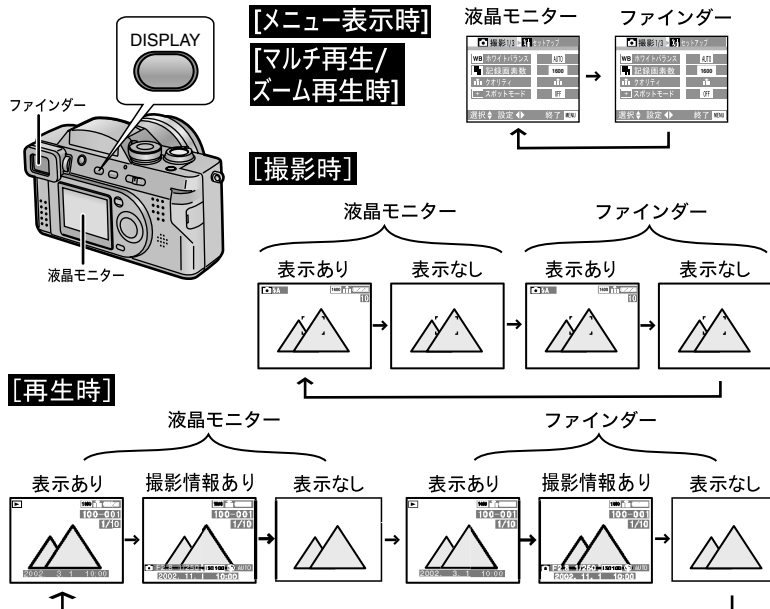
[メニュー表示時]
[マルチ再生/ズーム再生時]

液晶モニター → ファインダー

[撮影時]

液晶モニター：表示あり → 表示なし → ファインダー：表示あり → 表示なし

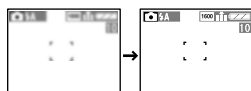
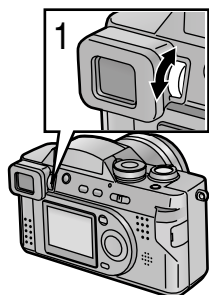
[再生時]

液晶モニター：表示あり → 撮影情報あり → 表示なし → ファインダー：表示あり → 撮影情報あり → 表示なし

ファインダーを見やすくする(視度調整)

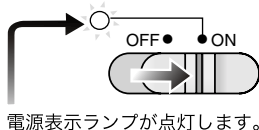
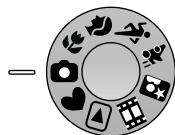
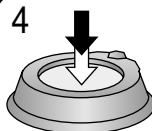
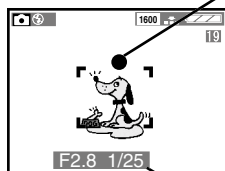
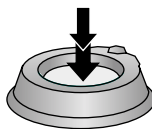
使う前に、視力に合わせてファインダー内の表示がよく見えるようにします。

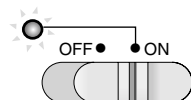
[準備]

- [DISPLAY] ボタンを数回押してファインダーを表示させる。

1 視度調整ダイヤルを回して調節する

撮影してみましょう(通常撮影)

シャッターボタンを押すだけで、露出(シャッタースピードと絞り値)が自動的に決まり、撮影できます。

[準備]
- ●カードを入れる。(P18)
- ●バッテリーを入れる(P16)または AC アダプターをつなぐ。(P17)
- ●レンズキャップを外す。

■ 電源表示ランプについて

- 点灯： 電源スイッチを [ON] にしたとき
- 点滅： メモリーカード / バッテリー扉が開いているとき
  カードが入ってないとき
  カードの撮影残り枚数 / 時間がないとき
  撮影時、カードがプロテクトされているとき
  レンズキャップを外し忘れたとき（撮影開始時）
  バッテリー残量が少なくなったとき（ゆっくり点滅）

■ ピントについて

- シャッターボタンを一度に全押しすると、手ぶれをしたり、ピントが合わなかったりします。
- フォーカス表示が点滅しているときはピントが合っていませんので、再度、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。
- 以下のような場合、通常撮影ではピントがうまく合いません。
  1. 遠くと近くのものを同時に撮る
  2. 汚れたガラスの向こうのものを撮る
  3. キラキラと光るものが周りにある
  4. 暗い場所を撮る
  5. 動きの速いものを撮る
  6. コントラスト（濃淡）の少ないものを撮る
  7. 手ぶれしている

- フォーカス表示が出てピントが合っても、シャッターボタンを離すとピントが解除されます。再度、半押ししてください。

■ 露出について

- 適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値の色が赤色になります。
  （ただし、フラッシュ発光時は赤くなりません）
- 液晶モニター/ ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。特に暗い場所で長時間露光で撮影するときなどは、液晶モニター/ ファインダー上は暗く映りますが、実際は明るく撮れます。

■ 手ぶれについて

- 手ぶれしやすいときは、手ぶれ警告表示が出ます。
- 手ぶれ警告表示が出ているときには三脚の使用をおすすめします。または構えかた（P30）にお気を付けください。
- シャッターボタンを押し込む際に、手ぶれにお気を付けください。

撮る・基本

撮影してみましょう（通常撮影）（つづき）

■ デジタルカメラの取り扱いについて

大切に使ってね

- レンズ面に汚れや、ほこりが付いていないか確認してください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- レンズおよびレンズ鏡筒に衝撃を与えないでください。（取り扱いに気を付けてください）
- 撮影モードで電源を入れるときは、レンズ鏡筒が出ますので、レンズの前に障害物がないところで行ってください。
- レンズ鏡筒が出た状態では、レンズおよびレンズ鏡筒に力を加えないでください。
- レンズの表面をさわったり汚さないようにしてください。汚れたり砂などがついたときは、レンズが収納されていることを確認して、市販のブロワーブラシでほこりや砂などを払い、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。ベンジン、アルコール、シンナーなどの溶剤を使用すると変色や破損の原因となります。
- 浜辺など砂やほこりの多いところで使うときは、内部や端子部に砂やほこりが入らないように、また海水などでぬらさないようにしてください。

■ 上手に撮る姿勢

手持ちでぶれのない写真を撮るために…

- ・両手でカメラを軽く持ち、脇をしめて構える
- ・シャッターボタンを半押し状態のとき、ぶれが収まっていることを確認する
- ・シャッターを切ったあと、画像が出るまでカメラを固定する

■ AF/AE ロックについて

●AF: オートフォーカス
●AE:オートエクスポージャー(自動露出)

(例)右のような構図を撮りたい場合
被写体がAFエリアから外れている場合、そのままシャッターボタンを押すだけでは背景などにピントが合ってしまい、被写体にピントが合いません。

AFエリア①に被写体を合わせ、シャッターボタンを半押しし、ピントと露出を固定(AF/AE ロック)したまま撮りたい構図にカメラを動かし、シャッターボタンを押すと、ピントの合ったきれいな画像が撮れます。

- ピントが合うと、フォーカス表示②[●]が点灯します。

●AF/AEロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

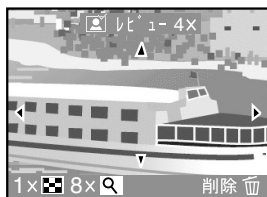
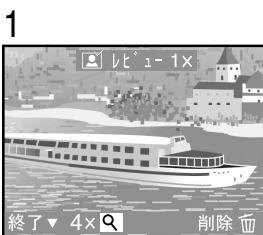
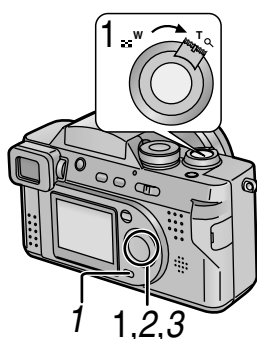
撮る・基本

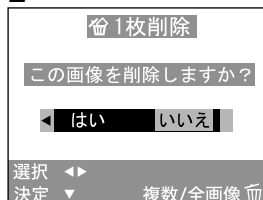
お願い/ヒント

- 撮影前には、再度時計設定をすることをおすすめします。(P26)
- モードダイヤルが撮影系のとき、レンズキャップ(P21)を付けたまま電源を [ON]にすると、「レンズキャップを外して ▼ を押して下さい」というメッセージが表示されます。レンズキャップを外したあと、▼/[REVIEW/SET]ボタンを押してください。
- パワーセーブの時間が設定されているとき(P25)は、設定された時間内にカメラの操作をしないと自動的に電源が切れます。再びカメラの操作をするときは、シャッターボタンを押すか、電源スイッチを [OFF] にしてから再度 [ON] にしてください。
- ズーム動作やカメラを動かしたときなどで明るさが変化した場合、レンズ部からカチッと音がし、液晶モニター内の画像が急激に変わるときがありますが、静止画撮影に影響はありません。
このときの音はカメラの自動絞り動作によるもので、異常ではありません。

撮影した画像を確認する(レビュー)

1

↓

(例:4倍のとき)

2

オートレビュー(P25,P38)を設定していると、撮影直後約1秒または3秒間撮影した画像が液晶モニターに表示されますが、以下の方法で確認することもできます。

1 撮影後、[REVIEW/SET] ボタンを押す

- 最後に撮影した画像が約5秒間表示されます。この間にズームレバーを [🔍] の方に動かすと4倍に、さらにもう一度動かすと8倍にズームして表示されます。ズーム中は ▲/▼/◀/▶ で拡大位置を変えることができます。
- また、◀/▶ で前後の画像を確認することができます。

■ **撮影した画像をレビュー中に削除する**

1 [🗑] ボタンを押す

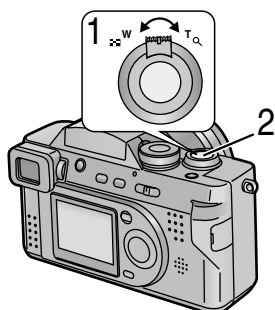
2 「この画像を削除しますか?」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ

3 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- 画像が削除されます。
- 画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。

お願い/ヒント

- 動画[🎞]のときは、レビューが使えません。

大きく(望遠)または広く(広角)撮る

光学ズーム12倍までの範囲で、人や物を大きく撮ったり景色などを広角に撮ることができます。

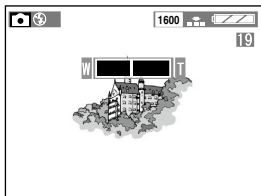
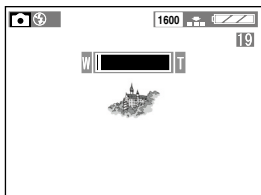
[準備]

- モードダイヤル(▶以外)を選んでおく。

1 被写体にカメラを向けて、ズームレバーで大きさを調整する

大きく撮るには（望遠）：T 側へ動かす
広く撮るには（広角）：W 側へ動かす

2 撮影する

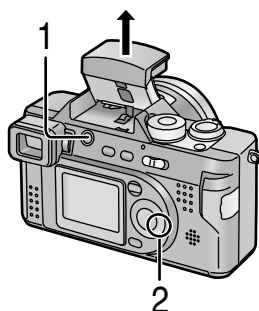
撮影手順は「撮影してみましょう(通常撮影)(P28)」の 3 ～ 4 と同じです。

お願い/ヒント

- T 端は 1.2 m、W 端は 30 cm までピントが合います。
  マクロ時は P40 を、かんたんモード時は P39 を参照してください。
- 画像はレンズによってわずかにゆがんで撮影されます。
  これをディストーション(歪曲収差)といいます。
  広角にして近づくほどディストーションは大きくなります。

撮る・基本

内蔵フラッシュを使って撮る

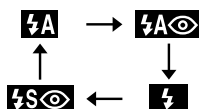
	⚡A	⚡A◎	⚡	⚡S◎	(発光禁止)
[♥]	×	○	○	×	○
[カメラ]	○	○	○	○	○
[マクロ]	○	○	○	○	○
[ポートレート]	○	○	○	×	○
[スポーツ]	○	○	○	×	○
[風景]	○	○	○	×	○
[夜景ポートレート]	×	×	×	○	○
[動画]	×	×	×	×	○

○：設定可
×：設定不可

暗い場所でも、内蔵フラッシュを使うと撮影することができます。

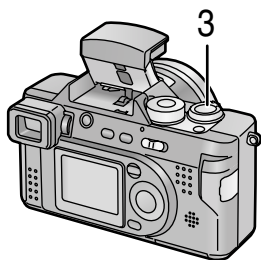
[準備]
- モードダイヤル(▶/動画 以外)を選んでおく。

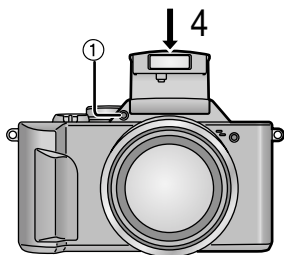
1 [⚡ OPEN] ボタンを押してフラッシュを開く

2 [⚡] を押す

- 押すごとに、以下のように切り換わります。(撮影モードによって設定できない機能があります。設定できない機能は[⚡]ボタンを押しても表示されません。左表を参照してください)

⚡A：オート
撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。

⚡A◎：赤目軽減オート
フラッシュが予備発光し、人の瞳が赤く写る(赤目現象)のをおさえます。また撮影状況に応じて自動的にフラッシュが発光します。
暗い場所で人物を撮るときなどに使います。

⚡：強制発光
フラッシュを強制的に発光させます。
逆光になる場合や蛍光灯などの照明の下に被写体がある場合などの撮影に使います。

[⚡S👁]:赤目軽減スローシンクロ

夜景を背景に人物を撮影するときなど、フラッシュ発光とともにシャッタースピードも長くして背景の夜景も明るく写します。同時に人の瞳が赤く写る(赤目現象)のをおさえます。三脚の使用をおすすめします。

[⊘]:発光禁止

フラッシュが出ていないときに設定されます。暗いところでもフラッシュが発光しません。
フラッシュ禁止の場所での撮影などに使います。

3 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(通常撮影)(P28)」の3～4と同じです。

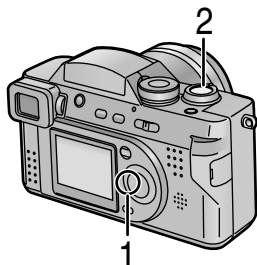
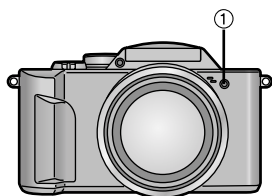
[フラッシュを閉じる]

4 カチッとなるまで矢印の方向に押す

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。

お願い/ヒント

- フラッシュが届く範囲は、約30 cm～2.1 mです。(ISO 100時)
- 手ぶれ警告表示が出ているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
- フラッシュ調光センサー①を指などでふさがないでください。明るさを感知できません。
- 夜景ポートレート[★👤]のときは、赤目軽減スローシンクロ[⚡S👁]に固定されます。
- 動画[🎞]のとき、またはフラッシュが閉じているときは、発光禁止[⊘]に固定されます。
- 連写およびオートブラケット設定時でフラッシュが発光する際は、1枚しか撮影できません。
- レンズフードが付いた状態でフラッシュ撮影するとフラッシュの光がフードでさえぎられることがあります。
- フラッシュ発光中に近くで発光部を直接見ないでください。
- フラッシュ発光する場合、シャッター半押し時にフラッシュマークが赤に変わります。
- フラッシュ充電中はフラッシュマークが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- フラッシュ使用時、フラッシュに物を近づけたり、フラッシュを完全に開いていないと、熱や光で変形、変色する場合があります。
- フラッシュ撮影すると、フラッシュ光に適したホワイトバランスが自動的に設定されますが(手動でホワイトバランス設定時を除く)、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- 手動でホワイトバランス設定後、フラッシュ撮影すると、ホワイトバランスが合わない場合があります。フラッシュ撮影時はホワイトバランスを[AUTO]に設定することをおすすめします。

セルフタイマーで撮る

シャッターボタンを押してから 10 秒後に自動的に撮影される通常のセルフタイマーに加えて、三脚使用時などに手ぶれを防止する2秒セルフタイマーも設定できます。

[準備]

●モードダイヤル（[▶]/[動画] 以外）を選んでおく。

1　[⏲] ボタンを押す

●押すごとに以下のように変わります。

⏲10（10秒）→ ⏲2（2秒）→ 表示なし

⏲10：セルフタイマー設定10秒
⏲2：セルフタイマー設定２秒
表示なし：セルフタイマー解除

2　シャッターボタンを全押しする

●セルフタイマーランプ ① が点滅し、10 秒（または２秒）後に撮影動作が開始されます。

●セルフタイマー設定時は、シャッターボタンを半押ししてもピントと露出は固定されませんが、全押ししたあと撮影直前に自動的に固定されます。

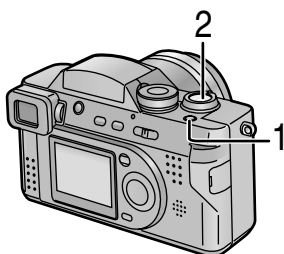
●セルフタイマー動作中に [MENU] ボタンを押すと、セルフタイマー設定が解除されます。

お願い/ヒント

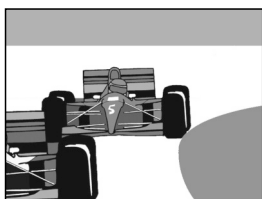
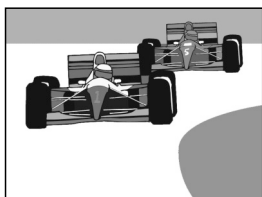
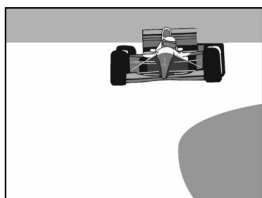
●かんたんモード [♥] のときは、セルフタイマーが 10 秒のみの設定になります。

●連写のときはセルフタイマーを設定すると 1 枚しか撮影できません。

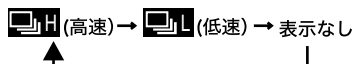
●セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。

連続して撮る(連写)

シャッターボタンを押し続けている間、連続して画像を撮影します。

		H(高速)	L(低速)
連写速度		4コマ/秒	2コマ/秒
連写枚数	ファイン	最大4コマ	最大4コマ
	スタンダード	最大7コマ	最大7コマ

[準備]

●モードダイヤル(/ 以外)を選んでおく。

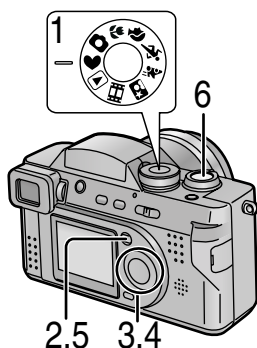
1 [ ] ボタンを押す

●押すごとに以下のように変わります。

H:連写設定高速
L:連写設定低速
表示なし:連写解除

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しし続けて連続撮影する

お願い/ヒント

- 1秒に4コマ連写できるのは、シャッタースピードが 1/60 より速く、フラッシュを発光させないときです。
- フラッシュが光る場合は1枚しか撮れません。
- かんたんモード[ ]のときは、低速に固定されます。(P39)
- 連写設定していると、音声付き静止画を撮影できません。

撮る・基本

[♥]かんたんモードについて

かんたんモード[♥]に合わせると:

- シンプルなメニューにしてあるので設定が簡単
- 難しい記録画素数の設定も用途で表すので選びやすい
- 文字が大きく見やすい表示に

気軽に撮りたいとき、人に撮影を頼むときなどに最適です。

1 **モードダイヤルをかんたんモード [♥] にする**

2 **[MENU] ボタンを押す**

3 **▲/▼ で項目を選ぶ**

4 **◀/▶ で設定内容を選ぶ**

5 **[MENU] ボタンを押す**

6 **撮影する**

撮影手順は「撮影してみましょう（通常撮影）（P28）」の 3 〜 4 と同じです。

項目	設定内容
画質設定 引き伸ばし 1600×1200 ファイン サービス版 1280× 960 ファイン インターネット 640 × 480 スタンダード	• 引き伸ばし : A4 などの大きめのサイズにプリントするときに最適です。 • サービス版 : サービスサイズ（L 版）の大きさにプリントするときに最適です。 • インターネット : 電子メールの添付画像やホームページ用画像などに使用するときに最適です。
オートレビュー	• ON: 撮影後に撮影した画像が自動的に約 1 秒間表示されます。 • OFF: 自動的に表示されません。
操作音	• ON: 操作音を出します。 • OFF: 操作音を消します。
時計設定	日付や時刻を変更するときに設定します。（P26）

■ その他のかんたんモード設定

液晶明るさ / ファインダー明るさ
- [0] に固定されます。

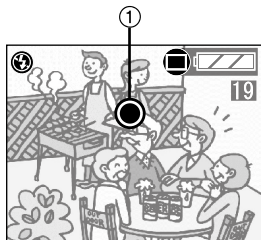
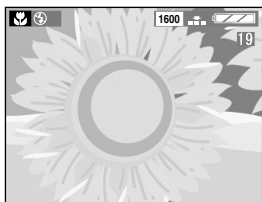
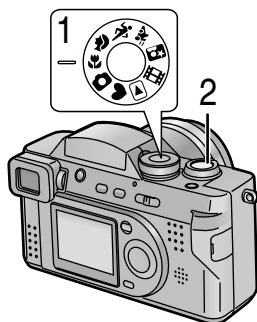
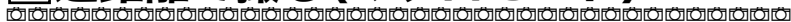
パワーセーブ
- [2 分] に固定されます。
- パワーセーブを解除するには、シャッターボタンを押すか、または電源スイッチを [OFF] にしてからもう一度 [ON] にしてください。
- AC アダプター使用時は、パワーセーブが働きません。

撮る・基本

お願い/ヒント

- **連写は低速のみになります。(P37)**

連写枚数	引き伸ばし	最大4コマ
	サービス版	最大4コマ
	インターネット	最大7コマ

- 撮影可能範囲は 5 cm- ∞(W 端時)は 1.2 m- ∞(T 端時)になります。
- 被写体までの距離が撮影可能範囲外で使用しているときは、フォーカス表示①が点灯していてもフォーカスが合っていない場合があります。
- 時計設定以外のかんたんモードでの設定内容は他の撮影モードには反映されません。
- 撮影モード別の詳細設定については (P47) をご覧ください。

近距離で撮る(マクロモード)

より近い被写体を撮影するときに使います。
レンズから 5 cm(W 端)まで近付いて撮ることができます。

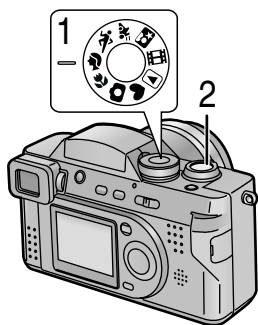
1 モードダイヤルをマクロ[ ]にする

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(通常撮影)(P28)」の 3 ～ 4 と同じです。

お願い/ヒント

- 撮影の状況に応じてフラッシュの設定をしてください。(P34)
- フラッシュが届く範囲は、
  約 30 cm ～ 2.1 m です。(ISO 100 時)
  手ぶれ警告表示が出ているときは、フラッシュの使用をおすすめします。
- 被写体までの距離が撮影可能範囲外で使用しているときは、フォーカス表示が点灯していてもフォーカスが合っていない場合があります。

人物を撮る(ポートレートモード)

人物のポートレートを撮影するときに、被写体を背景から際立たせて撮影できます。
昼間の屋外での撮影に適しており、ズーム位置はできるだけT側(望遠)にし、被写体までの距離を近くし、遠くにある背景を選ぶと、より効果が出ます。

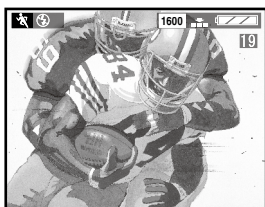
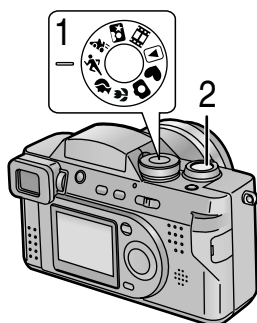
1 モードダイヤルをポートレート[ ]にする

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(通常撮影)(P28)」の 3 〜 4 と同じです。

お願い/ヒント

- ホワイトバランスはお買い上げ時は[AUTO]に設定されます。昼間の屋外での撮影に適した制御となります。
- 屋内で使用になりますと、色合いが変わる場合があります。
- ホワイトバランスはお好みによりメニューで変更することができます。(P48)

[スポーツ]動きの速い場面を止めて撮る（スポーツモード）

屋外でのスポーツシーンなど、動きの速い場面でシャッタースピードを速くして、動きを止めて撮影するときに使います。
5 m以上離れた昼間の屋外で撮影するのに適しています。

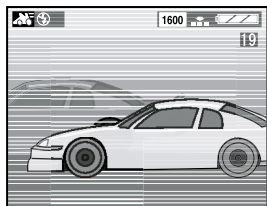
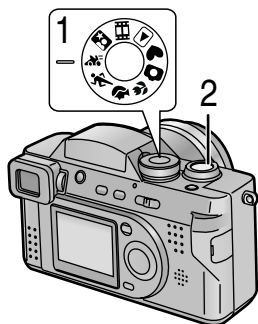
1 モードダイヤルをスポーツ[スポーツ]にする

2 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（通常撮影）（P28）」の 3 ～ 4 と同じです。

お願い/ヒント

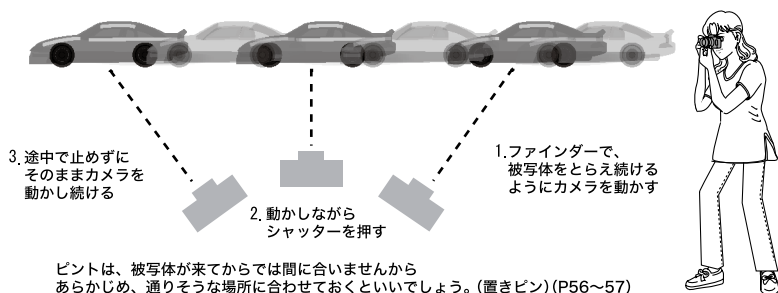
- シャッタースピードが1/250以上速い場合、ピントが合う範囲（被写界深度）を広げるため、シャッタースピードが遅くなる場合があります。
- ホワイトバランスはお買い上げ時は［AUTO］に設定されます。昼間の屋外での撮影に適した制御となります。
- 屋内で使用になりますと、色合いが変わる場合があります。
- ホワイトバランスはお好みによりメニューで変更することができます。（P48）

流し撮りモードで撮る

ランナーや車のように一定の方向に向かって動いている被写体の動きに合わせてカメラを振りながら撮影することで、被写体の背景が流れて写る効果を「流し撮り」といいます。
このモードに合わせると、流し撮りの効果を得やすくなります。

流し撮りのテクニック（被写体に追いつくことやブレを防ぐ）は難しく、ある程度練習が必要です。

1 モードダイヤルを流し撮り[ ]にする

2 撮影する

被写体を追いながらシャッターを切るテクニック。
カメラだけで追わずに、体を正面に向け、脇を閉め、腰をひねりながら体全体を使って被写体を追いかけるのがコツ。

ピントは、被写体が来てからでは間に合いませんから
あらかじめ、通りそうな場所に合わせておくといいでしょう。（置きピン）（P56～57）

撮る・応用

お願い/ヒント

- ホワイトバランスはお買い上げ時は［AUTO］に設定されます。昼間の屋外での撮影に適した制御となります。
- 屋内で使用になりますと、色合いが変わる場合があります。
- ホワイトバランスはお好みによりメニューで変更することができます。（P48）

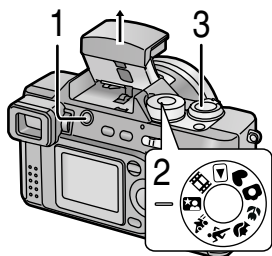
流し撮りモードで撮る(つづき)

■ 流し撮りのコツ

- カメラだけで追わずに、体を正面に向け、脇を閉め、腰をひねりながら体全体を使って被写体を追いかける。
- 被写体が正面に来たときに、シャッターを押す。シャッターを押すときにもカメラの振りを止めないようにしてください。
- 〈他に気を付けるべきポイント〉
  ❶ ファインダーを使う(P27)
  ❷ 動きの速い被写体を選ぶ
  ❸ 被写体にできるだけ近く
  ❹ 置きピン(P57)を使う
  ❺ 連写モード(P37)とあわせて撮影してよい画像を選択という方法もあります
  ❻ 夏の日中など、明るいところでは別売の ND フィルターを使うことをおすすめします。(P93)

■ 流し撮りの注意

- 流し撮りモードは、背景を流れやすくするため、シャッタースピードが遅くなります。このため、手ぶれが起こりやすくなります。
- 以下のような場合、流し撮りがうまく撮影できません。
  ❶ 夏の日中など、明るいところ(別売のNDフィルター(DMW-LND55)を使うことをおすすめします)(P93)
  ❷ シャッタースピードが 1/100 より速い場合
  ❸ 被写体の動きが遅く、カメラを振る速度があまりにも遅い場合(背景が流れません)
  ❹ 被写体をうまくカメラで追えていない場合(ある程度、練習が必要です)

[夜景ポートレート]夜景を背景に撮る（夜景ポートレートモード）

夜景をバックに人物などを撮影したいときに設定します。フラッシュとスローシャッターを使うことにより、人物と共に背景も見た目に近い明るさに露出されます。

1 [ϟ OPEN] ボタンを押してフラッシュを開く

2 モードダイヤルを夜景ポートレート [夜景ポートレート] にする

3 撮影する

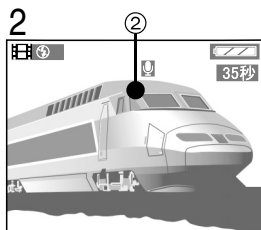
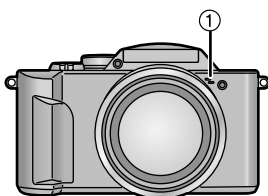
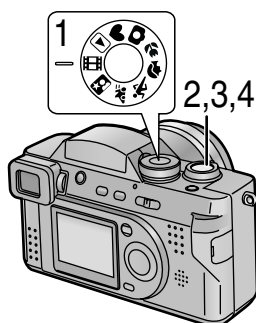
撮影手順は「撮影してみましょう（通常撮影）（P28）」の 3 ～ 4 と同じです。

夜景ポートレート撮影のコツ

- スローシャッター（最大 1 秒）になるため、三脚の使用をおすすめします。
- 撮影後、被写体の人に約 1 秒間は動かないように伝えてください。
- 被写体をフラッシュの届く範囲（約30 cm～2.1 m）で撮影してください。
- ズームレバーをW側にして撮影することをおすすめします。

お願い/ヒント

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- フラッシュ設定は赤目軽減スローシンクロ [ϟS◎] に固定されます。
- ホワイトバランスはお買い上げ時は[AUTO]に設定されます。夜景の撮影に適した制御となります。
- ホワイトバランスはお好みによりメニューで変更することができます。（P48）
- フラッシュを閉じているときは、最大 8 秒のスローシャッターになり、夜景に適した撮影ができます。
  このとき、ピントが合う範囲は 5 m ～∞となります。
- スローシャッター撮影後に、シャッターが閉じたまま（最大約8秒）になることがありますが、信号処理のためで、異常ではありません。
- 暗い場面で撮影したいとき、ノイズが目立つことがあります。
  ノイズが気になるときは、画質調整を [ナチュラル]（P60）にすることをおすすめします。

🎞動画を撮影してみましょう

本機で動画を撮影することができます。(付属の SD メモリーカード 8MB の場合、約 35 秒記録することができます)

1 モードダイヤルを動画 [🎞] にする

2 被写体が液晶モニター/ファインダーに入るように合わせ、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、フォーカス表示 ②[●] が画面に点灯します。

3 シャッターボタンを全押しして撮影を開始する

- 音声も同時に記録が始まります。(本機の内蔵マイク ① より録音されます)

4 再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了する

- 記録途中でカードのメモリーがいっぱいになると自動的に撮影が終了します。

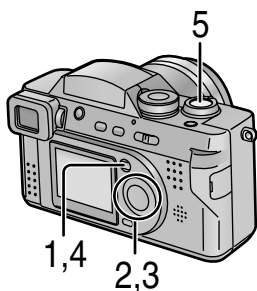
📖 お願い/ヒント

- 記録画素数は 320 × 240 画素に固定されます。
- 液晶モニター/ファインダーに表示される残り時間は、めやすです。
- 音声なしで動画を記録することはできません。
- マルチメディアカードを使う場合、動画記録後、カードアクセス表示がしばらく出る場合がありますが、異常ではありません。
- オートフォーカス/ズーム/ホワイトバランス/絞り値は、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。
- カードの種類によっては動画撮影のとき、途中で撮影が終了する場合があります。
- 本機で撮影された動画を他機で再生すると、画質、音質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 動画 [🎞] のときは、レビューが使えません。

撮影モード別設定可能機能一覧

										参照ページ
フラッシュモード		×	○	○	○	○	○	×	×	P34
		○	○	○	○	○	○	×	×	
		○	○	○	○	○	○	×	×	
		×	○	○	×	×	×	○	×	
		○	○	○	○	○	○	○	○	
セルフタイマー		○(10秒のみ)	○	○	○	○	○	○	×	P36
連写		低速固定	○	○	○	○	○	○	×	P37
露出補正		×	○	○	○	○	○	○	×	P62
オートブラケット		×	○	○	○	○	○	○	×	P63
ホワイトバランス		AUTO固定	○	○	○	○	○	○	AUTO固定	P48
記録画素数		画質設定	○	○	○	○	○	○	320×240固定	P50
クオリティ(圧縮率)		画質設定	○	○	○	○	○	○	×	P51
スポットモード		×	○	○	○	○	○	○	×	P52
ISO感度		AUTO固定	○	○	○	○	○	○	AUTO固定	P53
音声記録		×	○	○	○	○	○	○	ON固定	P54
AF連続動作		ON固定	○	○	○	○	○	○	○	P55
AF駆動		シャッター固定	○	○	○	○	○	○	○	P56
デジタルズーム		×	○	○	○	○	○	○	○	P58
カラーエフェクト		×	○	○	○	○	○	○	×	P59
画質調整		×	○	○	○	○	○	○	×	P60
手ぶれ補正		ON固定	○	○	○	○	○	○	○	P61

○:設定可
×:設定不可

自然な色合いに調整して撮る（ホワイトバランス）

2,3

オートホワイトバランスにより、自動で自然な色合いに撮ることができますが、場面の状態や光源によっては、自動で自然な色合いに撮れないことがあります。このような場合に手動でホワイトバランスを設定します。

[準備]

- モードダイヤル（▶/♡/▦以外）を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[ホワイトバランス]を選ぶ

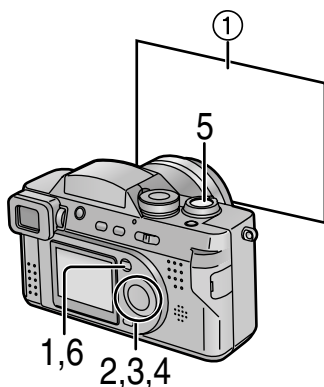
3 ◀/▶ で設定したいモードを選ぶ

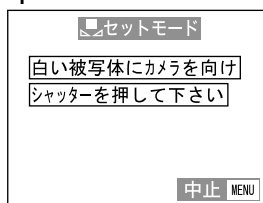
- AUTO：自動で設定するとき
- ☀（晴天）：屋外晴天下で撮影するとき
- ☁（曇り）：曇天や日陰で撮影するとき
- 白熱灯（白熱灯）：白熱灯下で撮影するとき
- セットモード（セットモード）：手動で設定するとき（詳しい設定方法については次のページをご覧ください）

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

5 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（P28）」の 3 ～ 4 と同じです。

2,3

4

ここでは、手動でホワイトバランスを設定するセットモードについて説明します。

[準備]

●モードダイヤル(▶/♡/🎞以外)を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[ホワイトバランス]を選ぶ

3 ◀/▶ でセットモード[ ]を選ぶ

新しくホワイトバランスを設定したいときのみ

4 ▶ を押す

●「白い被写体にカメラを向けシャッターを押して下さい」というメッセージが表示されます。

5 白い紙 ① などにカメラを向けて、画面全体が白くなるようにし、シャッターボタンを全押しする

●ホワイトバランスが設定されます。

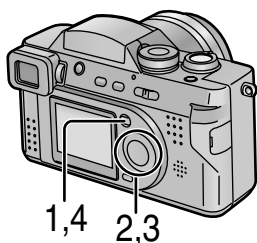
6 [MENU] ボタンを押す

●メニュー画面が消えます。

撮る・応用

お願い/ヒント

- ●ホワイトバランスの設定は、他の撮影モードにも反映されます。
- ●かんたんモード [♡] または動画 [🎞] のときは、[AUTO] に固定されます。
- ●フラッシュ撮影すると、フラッシュ光に適したホワイトバランスが自動的に設定されますが(手動でホワイトバランス設定時を除く)、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- ●手動でホワイトバランス設定後、フラッシュ撮影すると、ホワイトバランスが合わない場合があります。フラッシュ撮影時はホワイトバランスを [AUTO] に設定することをおすすめします。

記録画素数を変える

2,3

３種類の記録画素数の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

[準備]

- モードダイヤル(▶/♥/🎞以外)を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [記録画素数] を選ぶ

3 ◀/▶ で記録画素数を選ぶ

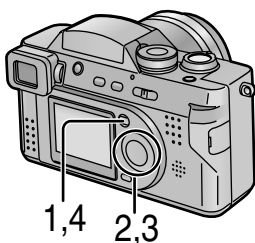
- 1600 :1600 × 1200 画素
- 1280 :1280 × 960 画素
- 640 : 640 × 480 画素

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます

お願い/ヒント

- 動画[🎞]のときは、320 × 240画素に固定されます。
- 小さい記録画素数を選ぶと、1 枚のメモリーカードにより多く記録できます。また、データ容量が小さいので、電子メールの添付画像やホームページ用画像などに使用するときに有効です。
- 大きい記録画素数を選ぶと、鮮明にプリントすることができます。

クオリティ(圧縮率)を変える

2,3

記録画素数/クオリティと記録枚数

	SDメモリーカード			
	8MB(付属)		**64MB**(別売)	
記録画素数	ファイン	スタンダード	ファイン	スタンダード
1600×1200	約 8枚	約 16枚	約 74枚	約149枚
1280×960	約 10枚	約 20枚	約 96枚	約184枚
640×480	約 34枚	約 68枚	約298枚	約553枚
動画	約 35秒		約 350秒	

2種類のクオリティ(圧縮率)の中から、目的に合わせて選ぶことができます。

[準備]

- モードダイヤル(▶/♥/動画以外)を選んでおく。

1 [MENU]ボタンを押す

2 ▲/▼で[クオリティ]を選ぶ

3 ◀/▶でクオリティ(圧縮率)を選ぶ

- **:ファイン(低圧縮)**
  画質を優先し、高画質に記録します。
- **:スタンダード(標準圧縮)**
  撮影枚数を優先し、画質は標準で記録します。

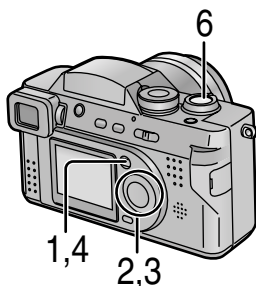
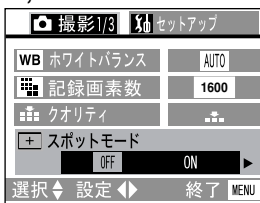
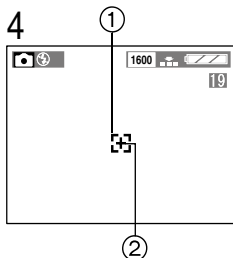
4 [MENU]ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

撮る・応用

お願い/ヒント

- シーンによってモザイク状になることがあります。
- 記録枚数はめやすです。
  (ファイン、スタンダード混在時は、記録枚数は変動します)
- 液晶モニター/ファインダーに表示される残り枚数は撮影された枚数分、減少しない場合があります。

スポットモードで撮る

被写体の一部に特にピントと露出を合わせて撮影することができます。コントラストの強い光線のもとでの撮影など、限られた範囲内にスポットを合わせるのに便利です。

[準備]

●モードダイヤル（▶/♥/🎞以外）を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [スポットモード] を選ぶ

3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

●メニュー画面が消えます。

●スポット AF エリア[ ]①とスポット測光ターゲット表示＋②が画面に出ます。

5 被写体をスポット AF エリアに合わせる

6 撮影する

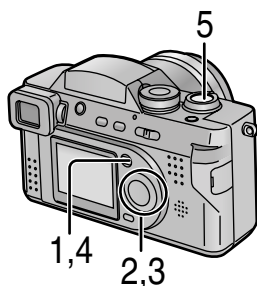
撮影手順は「撮影してみましょう（通常撮影）（P28）」の 3 ～ 4 と同じです。

お願い/ヒント

- 被写体が暗いときは、ピントが通常より合いにくい場合があります。
- スポット AF エリアでの最適な露出に設定されますので、被写体によっては周りが暗く映ったり、逆に白っぽくなる場合があります。
- 被写体がスポット AF エリアから外れる場合は、AF/AE ロック撮影（P31）を行ってください。

ISO 感度を設定して撮る

2,3

撮影2/3　セットアップ
ISO ＩＳＯ感度
AUTO　50　100 ▶
音声記録　OFF
C-AF AF連続動作　OFF
➡AF AF駆動
選択 ▲▼　設定 ◀▶　終了 MENU

ISO 感度とは、光に対する敏感さを数値で表したもので、数値が高くなるほど、暗い場所での撮影に適しています。フラッシュを使用できない場所や暗い場所での撮影に、ISO 感度を変えることができます。

[準備]

- モードダイヤル（▶/♡/🎞 以外）を選んでおく。

1　[MENU] ボタンを押す

2　▲/▼ で [ISO 感度] を選ぶ

3　◀/▶ で感度を選ぶ

- AUTO：明るさに応じて ISO 感度を ISO400 まで上げていきます。それでも画像が暗いときは、フラッシュを使用してください。
- 50：ISO50
- 100：ISO100
- 200：ISO200
- 400：ISO400

4　[MENU] ボタンを押す

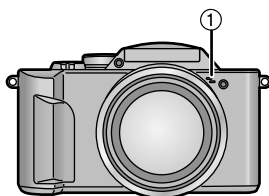
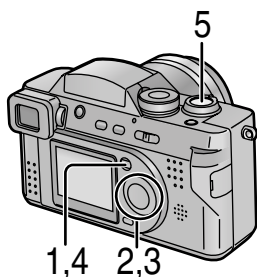
- メニュー画面が消えます。

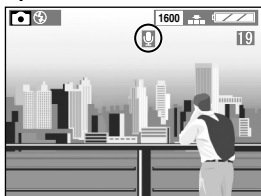
5　撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（通常撮影）（P28）」の 3 ～ 4 と同じです。

お願い/ヒント

- かんたんモード [♡] または動画 [🎞] のときは、[AUTO] に固定されます。
- ISO 感度を高くして撮影すると、画面にノイズが増えて、画質が劣化します。
- ノイズが気になるときは、ISO 感度を低くして撮影することをおすすめします。
- ノイズが気になるときは、画質調整を [ナチュラル]（P60）にすることをおすすめします。

音声付き静止画を撮る

2,3

4

1回、5秒間の音声が入った画像を撮ることができます。

[準備]

●モードダイヤル(▶/♥/🎞以外)を選んでおく。

1 [MENU]ボタンを押す

2 ▲/▼で[音声記録]を選ぶ

3 ◀/▶.で[ON]を選ぶ

4 [MENU]ボタンを押す

●メニュー画面が消えます。

●液晶モニター/ファインダーに[🎙]が表示されます。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

●シャッターボタンを押し続ける必要はありません。

●音声は本機の内蔵マイク①より録音されます。

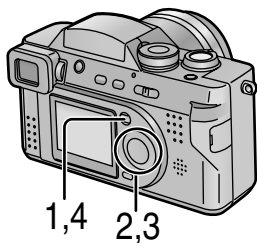
●5秒間録音後、自動的に終了します。

●録音中に[MENU]を押すと解除されます。音声は記録されません。

お願い/ヒント

●オートブラケットを設定していると、音声付き静止画を撮ることができません。(P63)

●連写のときは、音声付き静止画を撮ることができません。(P37)

常に AF を動作させる(AF 連続動作)

シャッターボタンを半押ししなくても、常に AF を動作させることができます。
シャッターボタンを半押ししたときのピントが合うまでの時間が短くなります。

[準備]

- モードダイヤル(▶/♥以外)を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[AF連続動作]を選ぶ

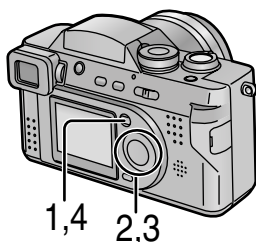
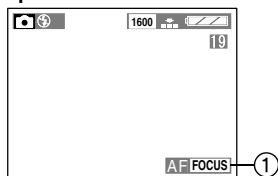
3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。
- 液晶モニター/ファインダーに C-AF ① が表示されます。(C-AF とは Continuous（コンティニュアス） AF の略です)

お願い/ヒント

- 「AF 連続動作」を [ON] に設定すると、AF 駆動は [シャッターボタン] に固定されます。(P56)
- かんたんモード [♥] のときは、[ON] に固定されます。
- バッテリーの消耗は早くなります。
- ズームを W 側から T 側に動かしたり、急に、被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うのに時間がかかることがあります。
- 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。(P29)
- シャッターを半押ししたとき、画面が一瞬止まりますが、故障ではありません。

ピントを合わせるためのボタンを選ぶ（AF 駆動）

オートフォーカスを駆動させる方法には2種類あります。（シャッターボタン半押しと、[FOCUS] ボタン）
[FOCUS]ボタンを使うと、置きピン（P57）などに有効です。

[準備]
●モードダイヤル（▶/♥以外）を選んでおく。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [AF 駆動] を選ぶ**

3 **◀/▶ で [シャッター] または [FOCUS] を選ぶ**

- シャッター：シャッターボタン半押しで AF を駆動させる
- FOCUS：[FOCUS] ボタンで AF を駆動させる

4 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。
- [FOCUS]**（フォーカスボタン）設定時のみ、**液晶モニター/ ファインダーに AF FOCUS ① が表示されます。

お願い/ヒント

- 「AF 連続動作」を [ON] に設定すると、「AF 駆動」は [シャッターボタン] に固定されます。
- かんたんモード [♥] のときは、[シャッターボタン] に固定されます。

■置きピンについて

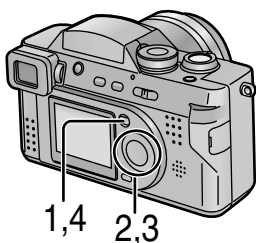
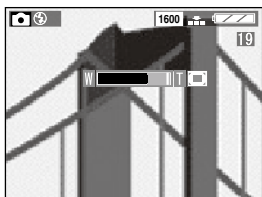
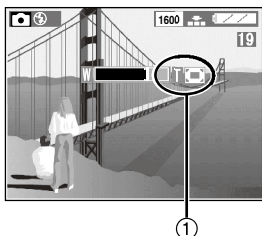
流し撮り(P43)など、オートフォーカスではピントが合いにくい、
動きの速い被写体を撮影する場合に、あらかじめ被写体を撮影するポイントに、ピントを合わせておくテクニックです。
[FOCUS]ボタンによるAF駆動は、この「置きピン」に有効な設定です。

[FOCUS] ボタンを使って「置きピン」をする方法

1 **AF 駆動を FOCUS にする**(P56)
2 **ピントを合わせたいところに AF エリアを合わせ**(P28)、[FOCUS] **ボタンを押す**
   ●フォーカス表示が点灯します。

再度[FOCUS]ボタンを押すまでシャッターボタンを半押ししてもAFが駆動せず、ピントが固定されます。
これで、動きの速い被写体も狙ったポイントで、キャッチしやすくなります。

運動会でゴールして来る子供、結婚式での新郎新婦など、被写体との距離が決まっている場合の撮影に最適です。

さらに拡大して撮る(デジタルズーム)

2,3

光学 12 倍、デジタル 3 倍の最大 36 倍まで拡大が可能になります。
(ただし連写、オートブラケットの場合は、デジタルズームは 2 倍の最大 24 倍までとなります)

[準備]

●モードダイヤル(▶/♥以外)を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[デジタルズーム]を選ぶ

3 ◀/▶ で [ON] を選ぶ

4 [MENU] ボタンを押す

●メニュー画面が消えます。

ズームの調整や撮影手順は、「大きく(望遠)または広く(広角)撮る」(P33)と同じです。

デジタルズームを[ON]にすると、デジタルズーム表示 ① が出ます。

光学ズームの最も望遠側まで拡大すると、一旦ズーム位置表示のバーが停止します。
その状態でズームレバーをT側に押し続けるか一旦ズームレバーを離して再度T側にレバーを押すとデジタルズーム領域に入ることができます。

お願い/ヒント

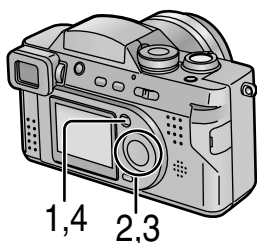
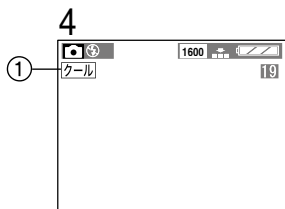
●デジタルズームは拡大するほど画質が劣化します。

●デジタルズーム領域では、手ぶれ補正が効きにくくなることがあります。

●デジタルズーム使用時は三脚の使用をおすすめします。

カラーエフェクトを設定する

2,3

4

この機能を使うとブルー系、レッド系、白黒の効果が得られます。
撮影イメージに合わせて使い分けてください。

[準備]

- モードダイヤル(▶/♡/🎞以外)を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [カラーエフェクト] を選ぶ

3 ◀/▶ で [OFF]、[クール]、[ウォーム] または [白黒] を選ぶ

- クール:青っぽい映像になります。
冬の冷たいイメージなどを表現したいときに有効です。
- ウォーム:赤っぽい映像になります。
暖かみのあるイメージを表現したいときに有効です。
- 白黒:白黒画像になります。

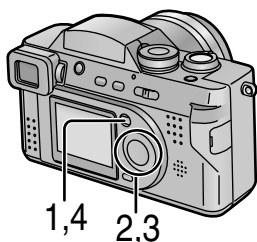
4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。
- 液晶モニター/ファインダーにクール/ウォーム/白黒① が表示されます。

撮る・応用

画質を調整する（ナチュラル / 標準 / ヴィヴィッド）

2,3

[準備]

- モードダイヤル（▶/♥/🎞以外）を選んでおく。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [画質調整] を選ぶ

3 ◀/▶ で[ナチュラル]、[標準]または[ヴィヴィッド]を選ぶ

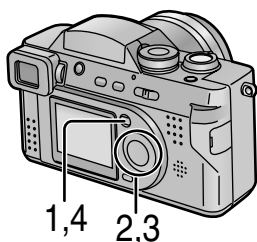
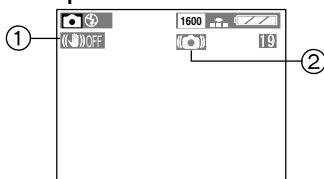
- ナチュラル ： より柔らかいイメージの画像になります。
- ヴィヴィッド：よりくっきりとしたイメージの画像になります。

4 [MENU] ボタンを押す

- メニュー画面が消えます。

📖 お願い/ヒント

- 暗い場面で撮影したいとき、ノイズが目立つことがあります。
ノイズが気になるときは、画質調整を[ナチュラル]にすることをおすすめします。

手ぶれ補正機能を入 / 切する

手ぶれ補正機能は通常 [ON] でお使いいただけますが、意図的に手ぶれの写真を撮りたい場合などに[OFF]にすることができます。

[準備]

- モードダイヤル(▶/♥以外)を選んでおく。

2,3

撮影3/3 セットアップ
デジタルズーム OFF
カラーエフェクト OFF
画質調整 標準
手ぶれ補正
◀ OFF ON
選択 設定 終了 MENU

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [手ぶれ補正] を選ぶ**

3 **◀/▶ で [ON] または [OFF] を選ぶ**

4 **[MENU] ボタンを押す**

- メニュー画面が消えます。
- [OFF] **設定時のみ、**液晶モニター/ファインダーに((✋))OFF ① が表示されます。

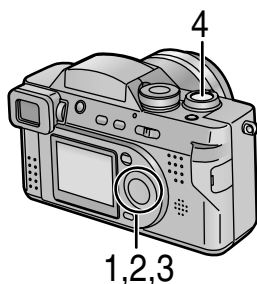
撮る・応用

📖 お願い/ヒント

以下の場合、手ぶれ補正が効きにくくなることがあります。

- 手ぶれが大きいとき
- デジタルズーム領域
- 動きのある被写体を追いながら撮影するとき
- 夜景撮影など、シャッタースピードが極端に遅くなる場合

- 望遠時、シャッタースピードが 1/125(手ぶれ補正 [ON] のとき)または 1/500(手ぶれ補正 [OFF] のとき)より遅いとき、手ぶれ警告表示 ② が出る場合があります。手ぶれについては P29 をお読みください。
- かんたんモード [♥] のときは、[ON] に固定されます。

露出を補正して撮る

被写体と背景の明るさにきわめて大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

[準備]

- モードダイヤル(▶/♥/🎞以外)を選んでおく。

1 [ ] ボタンを押して [露出補正] を選ぶ

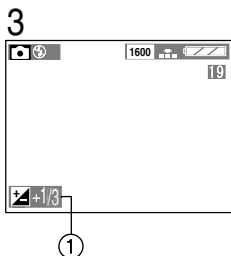
2 ◀/▶ で露出を調整する

- − 2EV から＋ 2EV の範囲で 1/3EV ステップで補正できます。
  (EV とは Exposure Value の略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化すると EV が変化します)
- 補正した明るさは液晶モニター/ ファインダーには反映されません。

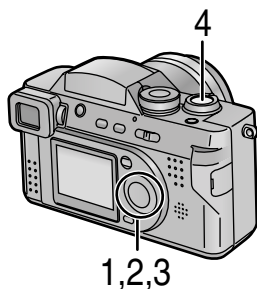
3 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- 調整画面が消えます。
- 液晶モニター/ ファインダーに露出補正値①が表示されます。

4 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう(通常撮影)(P28)」の 3 〜 4 と同じです。

お願い/ヒント

- シャッタースピードと絞り値によっては、露出補正できない範囲があります。

オートブラケットで撮る (AE ブラケット撮影)

１回シャッターを押すと、設定された露出補正量の幅に従って、カメラが露出を変えながら自動的に３枚撮影します。

[準備]

- モードダイヤル（▶/♡/🎞 以外）を選んでおく。

1 [±/⧉] ボタンを 2 回押して [⧉ オートブラケット] を選ぶ

2

⧉ オートブラケット

◀ ±1/3 EV ▶　−1 0 +1

選択 ◀▶　決定 ▼

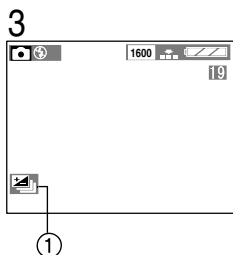
2 ◀/▶ で露出の補正量を決める

- OFF
- − 1EV ～＋ 1EV（1/3EV ステップ）

3 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

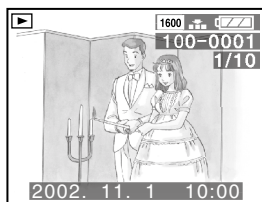
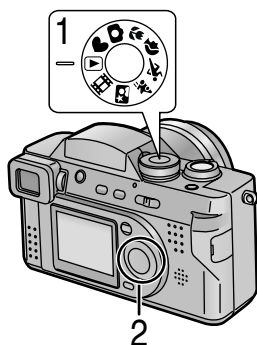
- 調整画面が消えます。
- 液晶モニター/ ファインダーにオートブラケット ① が表示されます。

4 撮影する

撮影手順は「撮影してみましょう（通常撮影）（P28）」の 3 ～ 4 と同じです。

お願い/ヒント

- 一度撮影すると自動的に解除されます。
- フラッシュが光る場合は 1 枚しか撮れません。
- デジタルズームは 2 倍までとなります。
- オートブラケットを設定すると、音声付き静止画を撮ることができません。

撮る・応用

撮影した静止画を再生する

1 モードダイヤルを再生 [▶] にする

●最後に撮影した画像が再生されます。

2 ◀ で前の画像を再生する
▶ で次の画像を再生する

●押すごとに前の(次の)画像が再生されます。

●最後に撮影した画像の次は、最初の画像になります。

早送り/早戻しする

再生中に ◀/▶ を押し続ける

▶:早送り

◀:早戻し

●ファイル内の番号が増 / 減していきます。◀/▶ を離すとその番号の画像が表示されます。

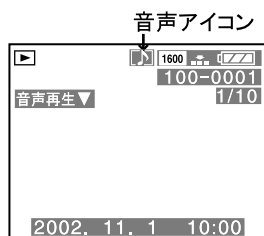
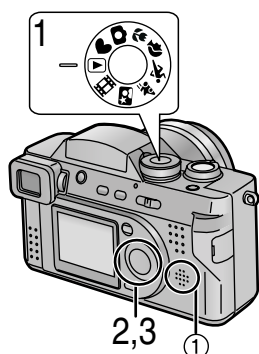
お願い/ヒント

●本機は電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格 DCF(Design rule for Camera File system) に準拠しています。

●本機で再生できるファイル形式は JPEG です。(JPEG 形式でも再生できないものがあります)

●他機で撮影された静止画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。

●規格外のファイルを再生したときはフォルダー/ ファイル番号が[—]で表示され、画面が黒くなる場合があります。

音声付き静止画を再生する

1 モードダイヤルを再生 [▶] にする

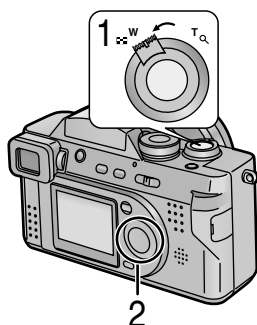
2 ◀/▶ で音声アイコン[♪]が付いた画像を選ぶ

3 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押して音声を再生する

- スピーカー① から音声が聞こえます。

■ スピーカの音量調整について (P24)

見る

9枚ずつ画像を表示する(マルチ再生)

1画面に9枚の画像を表示することができます。

[準備]

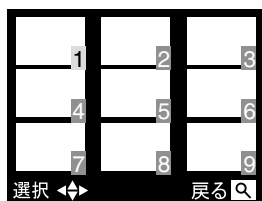
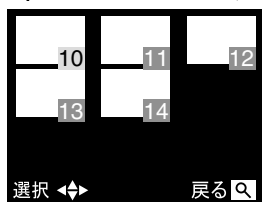
- モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 画像再生中に、ズームレバーを [■] の方に動かす

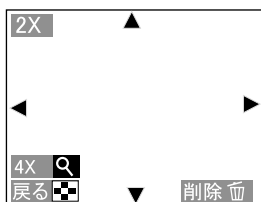
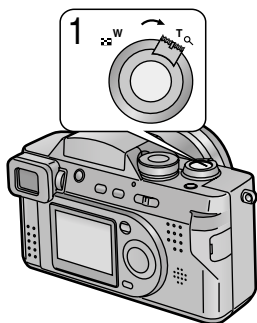
- マルチ再生(9コマ)になります。

2 ▲/▼/◀/▶ で画像を送る

- 1画面表示に戻るときは[Q]の方に動かしてください。黄色で表示された番号の画像が1画面表示されます。

- [DISPLAY]で[表示なし]を選択されている場合は、番号表示も消えていますのでご注意ください。

お願い/ヒント

- マルチ再生する前に、液晶モニター/ファインダーの表示を[表示あり]に設定してから(P27)マルチ再生に切り換えてください。
- [表示なし]にしていると、表示が出ないので気を付けてください。

再生画面を拡大する(再生ズーム)

再生中の画像を拡大して表示することができます。
(2 倍 /4 倍 /8 倍 /16 倍)

[準備]

- モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 画像再生中に、ズームレバーを [Q] の方に動かす

- ズームレバーを [Q] の方に動かすごとに、ズーム倍率が大きくなります。
- ズームレバーを[▦]の方に動かすごとにズーム倍率が小さくなります。
- ▲/▼/◀/▶ で拡大位置を変えることができます。

■ 再生ズーム中に画像を削除するには

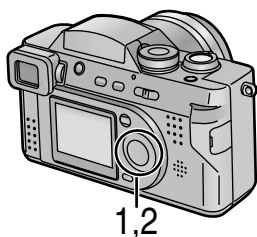
[🗑] ボタンを押してください。
「この画像を削除しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で「はい」を選び、▼/[REVIEW/SET] ボタンを押してください。(P69)

- [DISPLAY]で[表示なし]を選択されている場合は、番号表示も消えていますのでご注意ください。

お願い/ヒント

- 再生ズームは、拡大するほど画質が劣化します。
- 他機で撮影した画像を再生ズームできない場合があります。
- 再生ズームする前に液晶モニター/ファインダーの表示を[表示あり]に設定してから(P27)再生ズームに切り換えてください。
- [表示なし]にしていると、表示が出ないので気を付けてください。

見る

撮影した動画を再生する

[準備]

●モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 ◀/▶ で動画アイコン[]が付いたファイルを選ぶ

2 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押して動画を再生する

●▼ を押すと停止します。

早送り/早戻しする

動画再生中に ◀/▶ を押し続ける

▶:早送り

◀:早戻し

●離すと通常の動画再生に戻ります。

一時停止する

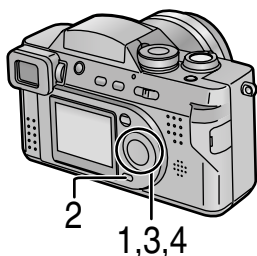
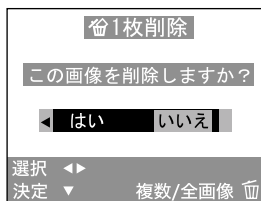
動画再生中に ▲ を押す

●もう一度 ▲ を押すと一時停止が解除されます。

■ スピーカの音量調整について（P24）

お願い/ヒント

- 動画再生中、再生ズームはできません。
- 本機で再生できるファイル形式はQuickTime Motion JPEG です。
- パソコンや他機で記録されたQuickTime Motion JPEG ファイルを本機で再生できない場合があります。
- 他機で撮影された動画を再生すると、画質が劣化したり、再生できない場合があります。
- 大容量のカードを使用したとき、早戻しが遅くなる場合があります。

画像を削除する

カードに記録された画像を削除します。
画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。

[準備]

- モードダイヤルを再生 [▶] にする。
- プロテクト設定を解除しておく。(P72)

[1 枚削除]

2

1 ◀/▶ で削除したい画像を選ぶ

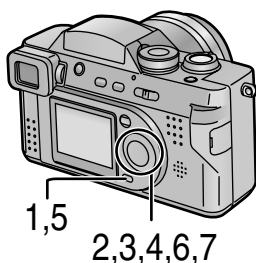
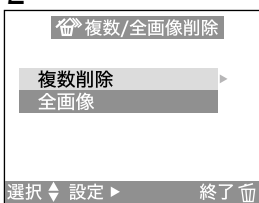
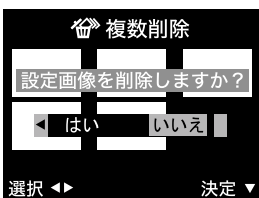
2 [🗑] ボタンを押す

3 ◀/▶ で [はい] を選ぶ

4 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- 選択した画像が削除されます。

見る

編集する

2

3(複数画像削除)

[複数削除]

一度に削除できるのは 50 枚までです。

画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。

1 **[🗑] ボタンを 2 回押す**

2 **▲/▼ で[複数削除]を選び、▶を押す**

3 **◀/▶ で画像を選ぶ**

4 **▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す**

- 設定した画像に [🗑] が表示されます。もう1度▼/[REVIEW/SET]を押すと設定が解除されます。
- プロテクトされていると設定した画像に [🔑] アイコンが赤く点滅し、画像を削除できません。プロテクト設定を解除しておいてください。(P72)

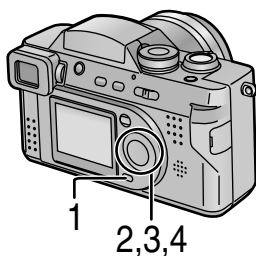
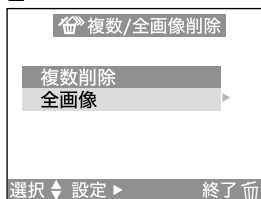
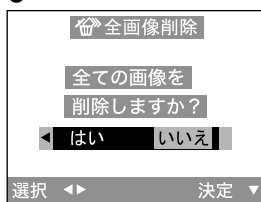
5 **[🗑] ボタンを押す**

6 **「設定画像を削除しますか?」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ**

7 **▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す**

- 選択された複数枚の画像が一度に削除されます。

2

複数/全画像削除
複数削除
全画像
選択 設定 ▶ 終了

3（全画像削除）

[全画像削除]

画像は一度削除すると元に戻すことができません。よく確認してから削除してください。

1 [🗑] ボタンを 2 回押す

2 ▲/▼で[全画像]を選び、▶を押す

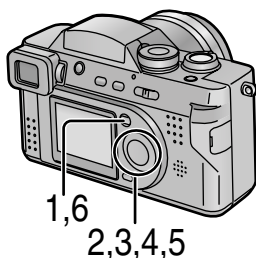
3 「全ての画像を削除しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ

4 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- プロテクトされた画像、DCF 規格外のファイル（P64）は削除されません。

お願い/ヒント

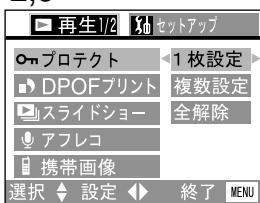
- 削除中は電源を [OFF] にしないでください。
- バッテリー残量（P15）が少ないときは、AC アダプターの使用をおすすめします。

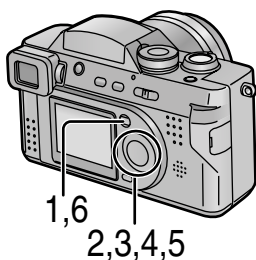
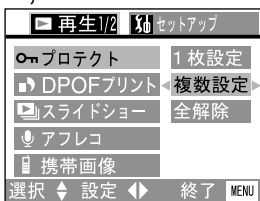
カードの画像をプロテクトする

カードに記録した大切な画像を誤って削除しないように、プロテクトすることができます。

[準備]

- モードダイヤルを再生 [▶] にする。

[1 枚設定 / 解除]

1. [MENU] ボタンを押す
2. ▲/▼ で[プロテクト]を選び、▶ を押す
3. ▲/▼ で [1 枚設定] を選び、▶ を押す
4. ◀/▶ で画像を選ぶ
5. ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す
   - プロテクトアイコン表示 ① で設定、もう一度 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押すとプロテクトアイコンが消えて解除できます。
6. [MENU] ボタンを 2 回押す
   - メニュー画面が消えます。

2,3

4

5

[複数設定 / 解除]

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[プロテクト]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[複数設定]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

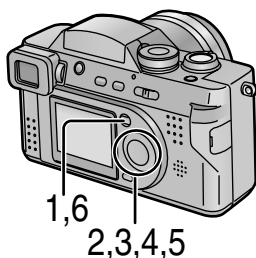
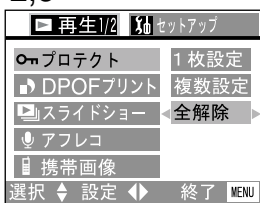
5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

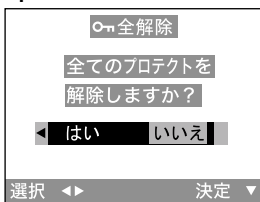
- プロテクトアイコン表示①で設定、もう一度▼/[REVIEW/SET] ボタンを押すとプロテクトアイコンが消えて解除できます。

6 手順4と5を繰り返し、最後に[MENU] ボタンを2回押す

- 複数枚の画像が一度にプロテクトされます。
- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は削除されます。(P87)
- プロテクトされたファイルを削除しようとすると、「この画像はプロテクトされています」または「プロテクトされた画像は削除されませんでした」というメッセージが表示され、削除できません。ファイルを削除したいときは、プロテクト設定を解除してください。
- プロテクト設定は本機でのみ有効です。
- プロテクト設定をしていなくても、SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、画像の削除はできません。
- プロテクトされている画像にはアフレコはできません。(P80)

2,3

4

[全解除]

1 [MENU] ボタンを押す

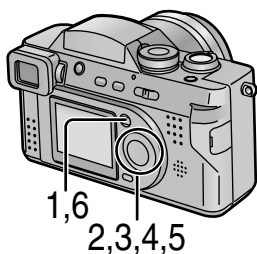
2 ▲/▼で[プロテクト]を選び、▶ を押す

3 ▲/▼で[全解除]を選び、▶を押す

4 「全てのプロテクトを解除しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ

5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す
- すべてのプロテクトが解除されます。

6 [MENU] ボタンを押す
- メニュー画面が消えます。

プリント情報をカードに書き込む（DPOF プリント設定）

プリントしたい画像、プリント枚数などの情報（DPOF プリントデータ）をカードに書き込むことができます。
DPOF とは Digital Print Order Format の略です。DPOF 対応のシステムで活用できるようにカードのメモリー画像にプリント情報などを付加できるようにしたものです。

[準備]
- ●モードダイヤルを再生 [▶] にする。

[1 枚設定]

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [DPOF プリント] を選び、▶ を押す

2,3
3 ▲/▼ で[1 枚設定]を選び、▶ を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

4
5 ▲/▼ でプリント枚数を選ぶ

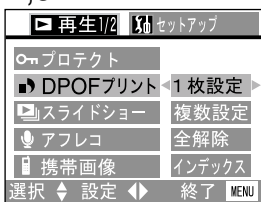
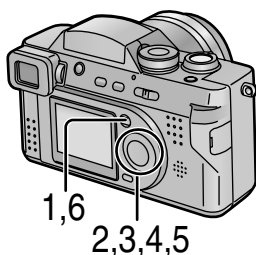
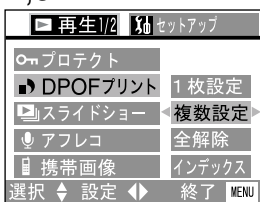
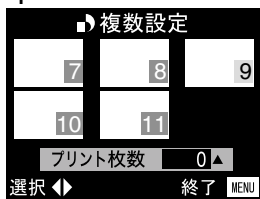
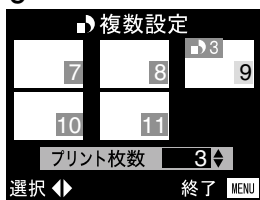
- ●プリント枚数は1～999枚まで設定できます。

5
6 [MENU] ボタンを 2 回押す

- ●メニュー画面が消えます。

[1 枚解除]

「1 枚設定」の手順5でプリント枚数を 0 にすると、解除できます。

編集する

プリント情報をカードに書き込む(DPOF プリント設定)(つづき)

2,3

4

5

[複数設定]

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [DPOF プリント] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[複数設定]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

5 ▲/▼ でプリント枚数を選ぶ

- プリント枚数は1〜999枚まで設定できます。

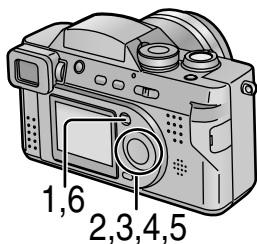
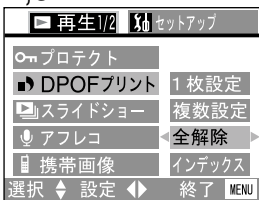
6 手順4と5を繰り返し、最後に[MENU] ボタンを 2 回押す

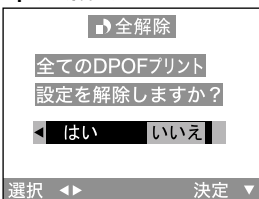
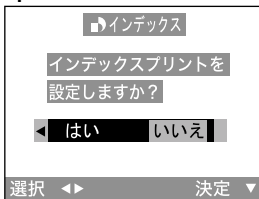
- 複数枚の画像が一度に DPOF 設定されます。
- メニュー画面が消えます。

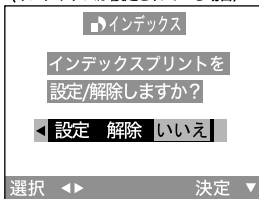
[複数解除]

「複数設定」の手順5でプリント枚数を 0 にすると、解除設定できます。

お願い/ヒント

- DPOFプリントの設定はスライドショーの DPOF 設定には反映されません。
- DCF 規格に準拠していないファイルは DPOF プリント設定できません。(DCF とは Design rule for Camera File system の略で、(社)電子情報技術産業協会のファイルシステム規格に準拠した記録方式です)
- 本機で DPOF プリント設定すると、他機種で設定されたDPOF情報はすべて解除され、本機の DPOF 設定が上書きされます。

2,3

（例：全解除を選んだ場合）

4（全解除）

4（インデックス）

(インテックスが設定されている場合)

[全解除]

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [DPOF プリント] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で[全解除]を選び、▶ を押す

4 「全ての DPOF プリント設定を解除しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ

5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す
- すべての DPOF プリント設定が解除されます。

6 [MENU] ボタンを押す
- メニュー画面が消えます。

[インデックス設定 / 解除]

1 [MENU] ボタンを押す

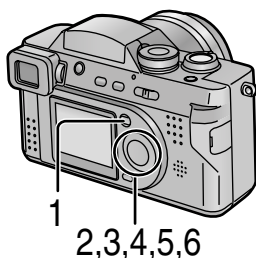
2 ▲/▼ で [DPOF プリント] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で [インデックス] を選び、▶ を押す

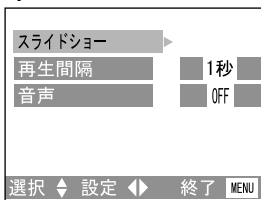
4 「インデックスプリントを設定しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ
- すでにインデックスが設定されている場合は、「インデックスプリントを設定 / 解除しますか？」というメッセージが出ますので、◀/▶ で [設定] または [解除] を選んでください。

5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す
- すべての画像が設定/解除されます。

6 [MENU] ボタンを押す
- メニュー画面が消えます。

スライドショーを見る(自動再生)

2,3

(例:全画像を選んだ場合)

4

(例:全画像を選んだ場合)

6

カード内の指定した画像を自動的に連続させて見ることができます。

[準備]

●モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼で[スライドショー]を選び、▶ を押す**

3 **▲/▼ で [全画像] または [DPOF] を選び、▶ を押す**

●全画像:すべての画像を見る
DPOF:手順 4 で DPOF スライドショー設定した画像を見る

4 **▲/▼/◀/▶ で [再生間隔]/[音声]/[DPOF 設定] または [全解除] を設定する**

●再生間隔:1、2、3、5 秒の中から設定できます。

●音声:[ON] または [OFF] を設定できます。[ON] を選ぶと、音声付き静止画をスライドショーさせることができます。

●DPOF 設定(手順3で[DPOF]を選んだときのみ):スライドショーさせたい画像を選ぶことができます。

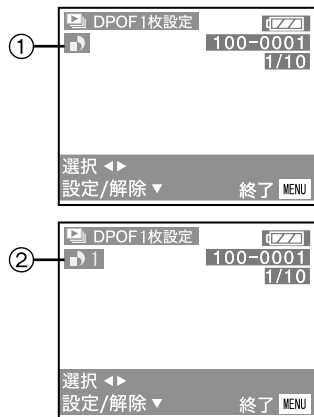
●全解除(DPOF 設定したときのみ):DPOF スライドショー設定を解除できます。

5 **▲/▼ で [スライドショー] を選ぶ**

6 **▶ を押す**

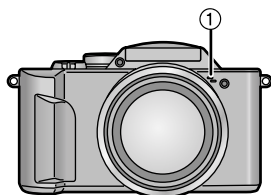
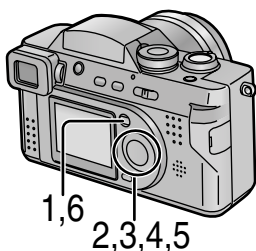
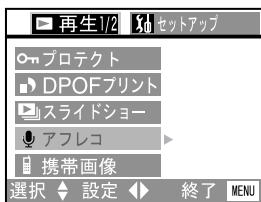
●スライドショーが始まります。

●[MENU] を押すと終了します。

- DPOF スライドショー設定を行うと、DPOF マークが緑色 ① で表示されます。
- DPOF プリントが設定されている画像に DPOF スライドショー設定を行うと DPOF マークとプリント枚数が緑色 ② で表示されます。

お願い/ヒント

- スライドショーで動画再生はできません。
- スライドショーの DPOF 設定は、DPOF プリントの設定には反映されません。
- DPOF 設定しないで DPOF スライドショーはできません。
- [音声]を[ON]にして音声付き静止画を再生するとき、音声記録で5秒、アフレコで最大 10 秒間音声が再生されます。
- 付属の CD-ROM のソフトウェア「SD Viewer for DSC」で編集された SD スライドショーを本機で見ることができます。110 ページをお読みください。
- 付属のソフト [SD Viewer for DSC] で DPOF 設定された画像は本機では DPOF スライドショーできません。DPOF スライドショー設定は本機で行ってください。
- 本機でDPOFスライドショー設定すると、他機種で設定されたDPOF情報はすべて解除され、本機の DPOF 設定が上書きされます。

使いこなす

撮影したあとに音声を入れる(アフレコ)

2

3,4

撮影した画像に、あとから10秒までの音声を入れることができます。

[準備]

●モードダイヤルを再生 [(▶)] にする。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼で[アフレコ]を選び、▶を押す**

3 **◀/▶ で画像を選ぶ**

4 **▼/[REVIEW/SET] ボタンを押して、録音を開始する**

●すでに音声が入っている場合、アフレコすると元の音声はなくなります。

●すでに音声が入っている場合、「音声データを上書きしますか」というメッセージが出ます。◀/▶ で [はい] を選び、▼/[REVIEW/SET] ボタンを押して録音を開始してください。

●音声は本機の内蔵マイク ① より録音されます。

5 **▼/[REVIEW/SET] ボタンを押して、録音を終了する**

●▼/[REVIEW/SET] ボタンを押さなくても、約 10 秒間録音すると、自動的に終了します。

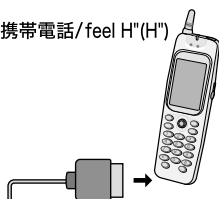
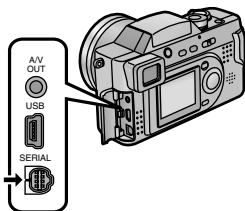
6 **[MENU] ボタンを押す**

●メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

●動画にアフレコすることはできません。

●プロテクトされている画像にはアフレコはできません。(P72)

携帯電話 /feel H” につなぐ

撮影した画像を携帯電話（au / Tu-Ka）/feel H”(H”) の壁紙や着信画面、E メールの添付用の画像として自動的にリサイズ（小さくする）して別売のシリアルケーブル、DMW-PC1（au 用）/DMW-PT1（Tu-Ka 用）/DMW-PH1（feel H”(H”) 用）を使って携帯電話 /feel H”(H”) へ転送することができます。

■ 本機側の操作

1 モードダイヤルを再生 [▶] にする

2 ◀/▶ で画像を選ぶ（P64）

■ 携帯電話 /feel H”(H”) 側の操作

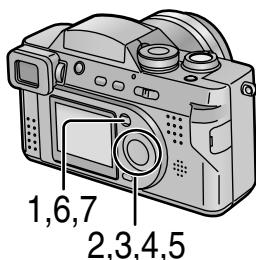
- 画像を携帯電話 /feel H”(H”) に取り込むときは、詳しくは、お使いの携帯電話 /feel H”(H”) の取扱説明書の外部機器接続の項目をご覧ください。（画像は携帯電話 /feel H”(H”) 側の操作により、指定サイズに変更されます）

使いこなす

お願い/ヒント

- 詳しくは別売のシリアルケーブルの取扱説明書をお読みください。
- 携帯電話 /feel H”(H”) の適用機種についてはパナソニックのホームページ（http://www.panasonic.co.jp/products/dc/）をご覧ください。

携帯電話/feel H”に添付する画像をカードに書き込む（携帯画像）

携帯電話 /feel H”(H”) へ SD メモリーカード経由で受け渡しするための画像（320 × 240 画素）を作成します。
この機能を使うと DPOF 自動送信ファイル（AUTXFER.MRK）が SD メモリーカードに作られます。携帯電話 /feel H”(H”) の DPOF 機能によりファイル内の画像が自動的に選択され、簡単にメールに添付することができます。作成された画像は、SD メモリーカードスロット付きの一部の携帯電話 /feel H”(H”)（2002 年 10 月現在の対応機種は KX-HS100、KX-HF300、KX-HS110、KX-HV50、KX-HV200、KX-HV210）で使えます。

2,3

4,5

[準備]

●モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で[携帯画像]を選び、▶を押す

3 ▲/▼ で[画像作成]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を選ぶ

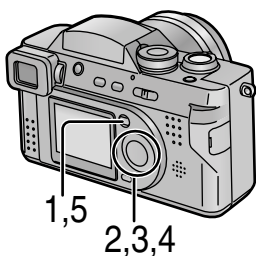
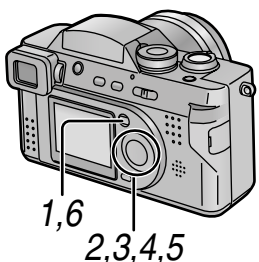
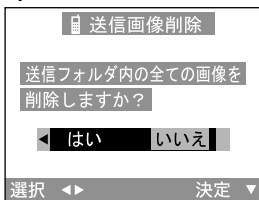
5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

●選択した画像が設定されます。
●必要枚数分繰り返してください。（最大９枚まで）

6 [MENU] ボタンを押す

●約２秒間設定した画像が表示されます。

7 [MENU] ボタンを押す

●メニュー画面が消えます。
●設定されているすべての画像を削除すると、再度、携帯画像を作成することができます。

3

4

[送信用画像を確認する]

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[携帯画像]を選び、▶を押す

3 ▲/▼で[画像確認]を選び、▶を押す

4 ◀/▶ で画像を送り、確認する

5 [MENU] ボタンを 2 回押す
- メニュー画面が消えます。

[送信用画像を削除する]

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼で[携帯画像]を選び、▶を押す

3 ▲/▼ で [画像削除] を選び、▶ を押す

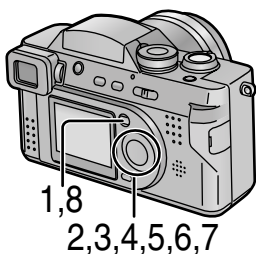
4 「送信フォルダ内の全ての画像を削除しますか？」というメッセージが出たら ◀/▶ で [はい] を選ぶ

5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す
- 送信フォルダ内のすべての画像が削除されます。

6 [MENU] ボタンを押す
- メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 携帯電話添付用画像の画像サイズは[320 × 240] 画素に設定されています。
- 設定されているすべての画像を削除すると、再度、携帯画像を作成することができます。
- 他機で撮影した画像から携帯画像を作成できない場合があります。
- 動画の画像や音声付き画像から携帯画像を作成できません。
- 画像転送前に、画像を確認してください。

画像のサイズを変える(リサイズ)

撮影した画像のサイズを小さくすることができます。Eメール添付やホームページ用に画像容量を小さくしたいときなどに使います。

[準備]

● モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [リサイズ] を選び、▶ を押す

3 ◀/▶ で画像を選び、▼を押す

4 ◀/▶で変更したいサイズを選ぶ

- 1280 : 1280 × 960
- 640 : 640 × 480

5 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押してサイズを決定する

6 「元の画像を削除しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] または [いいえ] を選ぶ

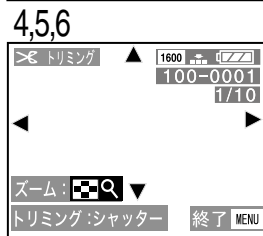
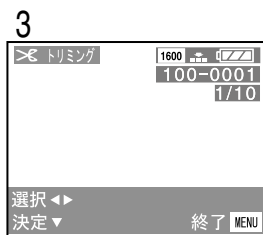
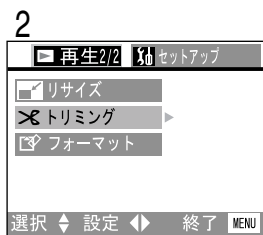
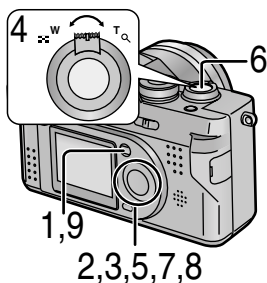
7 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

8 [MENU] ボタンを押す

● メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- サイズが [640 × 480] 画素以下の画像、および縦横比が4:3以外の画像はリサイズできません。
- 動画の画像や音声付き画像は、リサイズできません。
- 他機で撮影した画像は、リサイズできない場合があります。

画像を切り抜く(トリミング)

必要な部分のみを切り抜いて(トリミング)、引き伸ばすことができます。

2

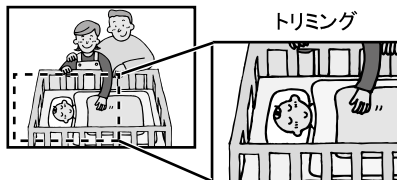
再生2/2 セットアップ
リサイズ
トリミング
フォーマット
選択 設定 終了 MENU

3

トリミング 1600
100-0001
1/10
選択
決定
終了 MENU

4,5,6

トリミング 1600
100-0001
1/10
ズーム：
トリミング：シャッター 終了 MENU

[準備]

●モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 [MENU] ボタンを押す

2 ▲/▼ で [トリミング] を選び、▶ を押す

3 ◀/▶ で画像を選び、▼ を押す

4 ズームレバーを [🔍](ズームイン)または [▦](ズームアウト)の方に動かす

5 ▲/▼/◀/▶ で画像を動かす

6 シャッターボタンを押して決定する

→つづく

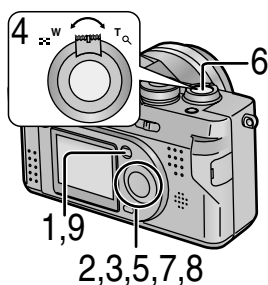
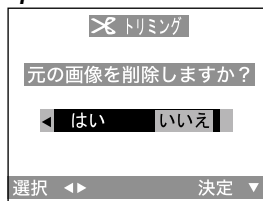
画像を切り抜く(トリミング)(つづき)

7

トリミング

元の画像を削除しますか？

◀ はい いいえ

選択 ◀▶ 決定 ▼

7 「元の画像を削除しますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で[はい]または[いいえ]を選ぶ

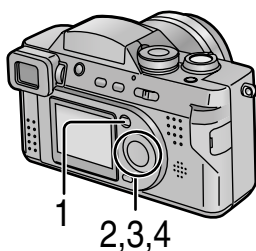
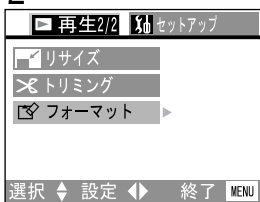
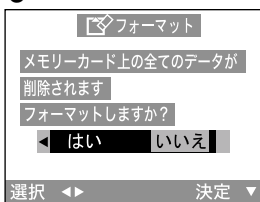
8 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

9 [MENU] ボタンを押す

● メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

● サイズが [640 × 480] 画素未満の画像、および縦横比が4:3以外の画像はトリミングできません。
● 他機で撮影した画像は、トリミングできない場合があります。
● 動画の画像や音声付き画像は、トリミングできません。

カードをフォーマットする

2
3
通常、カードはフォーマット（初期化）する必要はありません。「メモリーカードエラー」とメッセージが表示された場合にフォーマットしてください。

- パソコンやその他の機器でフォーマットされたカードを使用する場合も、再度本機でフォーマットしてください。
- 画像は一度フォーマットすると元に戻すことができません。よく確認してからフォーマットしてください。

[準備]

- モードダイヤルを再生 [▶] にする。

1 **[MENU] ボタンを押す**

2 **▲/▼ で [フォーマット] を選び、▶ を押す**

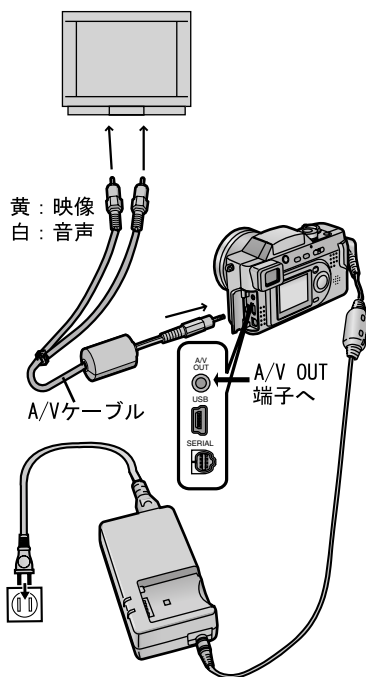
3 **「メモリーカード上の全てのデータが削除されます フォーマットしますか？」というメッセージが出たら、◀/▶ で [はい] を選ぶ**

4 **▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す**

- カードがフォーマットされます。

お願い/ヒント

- フォーマット中は電源を切らないでください。
- カードがフォーマットできないときはお買い上げの販売店へご連絡ください。
- バッテリー残量（P15）が少ないときは、AC アダプターの使用をおすすめします。

テレビに画像を映して再生する

付属のA/Vケーブルを使ってカメラとテレビを接続すると、テレビに画像を表示して再生ができます。

[準備]
- 電源スイッチを [OFF] にし、テレビの電源も切っておく。

1 **カメラの A/V OUT 端子に A/V ケーブルを確実に接続する**

2 **テレビの映像入力端子と音声入力端子に A/V ケーブルを接続する**

3 **テレビの電源を入れ、「外部入力」にする**

4 **電源スイッチを [ON] にし、モードダイヤルを再生 [▶] にする**
- 画像がテレビに表示されます。

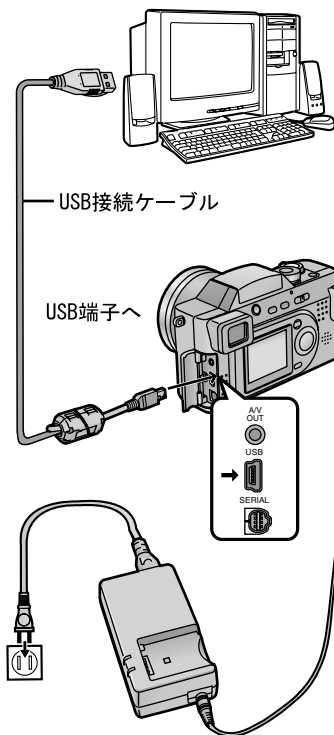
■撮ったものを海外で見るには

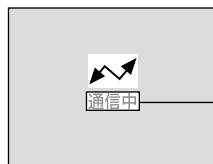
その国のテレビ方式に応じて、メニュー画面の [➡ ビデオ出力] の項目で、[NTSC](日本やアメリカなど)または [PAL](ヨーロッパなど)を選んでください。(P111)

📖 お願い/ヒント

- 接続時は、本機の電源として AC アダプターを使うことをおすすめします。
  接続方法は「電源コンセントにつないで使う」と同じです。(P17)
- 付属の専用ケーブル以外は使わないでください。
- モードダイヤルを再生[▶]にしているときのみ、テレビに画像を表示させることができます。
- テレビの説明書もお読みください。

パソコンと接続する

●Windows® 98/98SE をご使用のかたは、USB ドライバーのインストールを行ってから接続してください。
（Windows® Me/2000/XP、Mac OS 9.x/Mac OS X では
USB ドライバーのインストールは必要ありません）

1 **本機にカードを入れ、電源スイッチを [ON] にする**

2 **付属のUSB接続ケーブルで、本機とパソコンを接続する**

[Windows の場合]

[マイコンピュータ] フォルダにドライブが表示されます。

●初めて接続したときは、Windows のプラグアンドプレイにより、デジタルカメラを認識するために必要なドライバーが自動的にインストールされ、そのあと [マイコンピュータ] フォルダにドライブが表示されます。

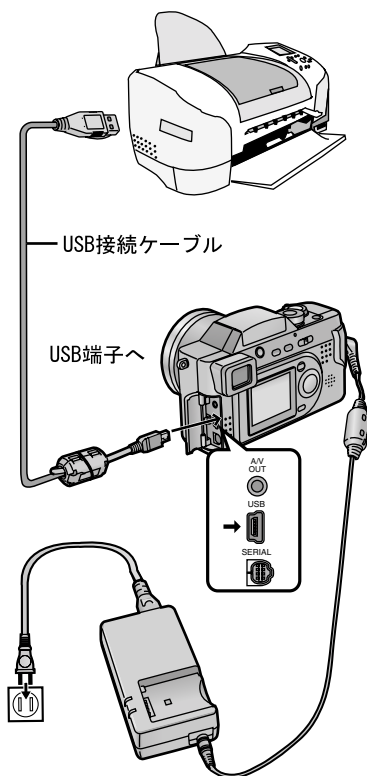
[Macintosh の場合]

画面上にドライブが表示されます。

使いこなす

お願い/ヒント

- 接続時は、本機の電源として AC アダプターを使うことをおすすめします。接続方法は「電源コンセントにつないで使う」と同じです。（P17）
- 接続時は、A/V OUT 端子から映像や音声は出力されません。
- 詳しくは別冊の「パソコン接続編」をお読みください。

プリンターと接続する

付属の USB 接続ケーブルを使ってカメラを USB DIRECT-PRINT 対応プリンターに直接接続し、デジタルカメラの液晶モニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。
（プリンターの取扱説明書もお読みください）

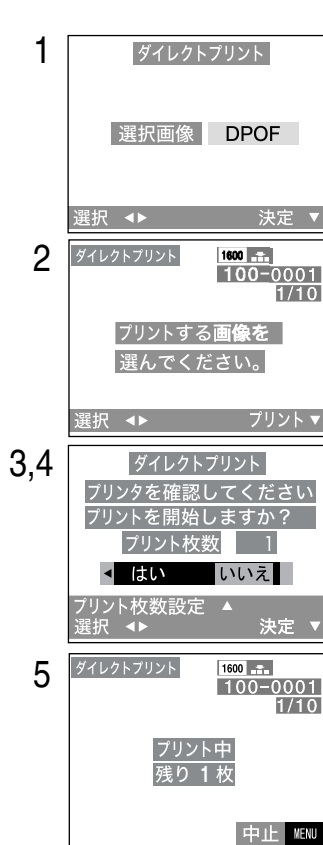
1 **本機にカードを入れ、電源スイッチを [ON] にする**

2 **プリンターの電源を入れる**

3 **付属のUSB接続ケーブルで、本機とプリンターを接続する**

お願い/ヒント

- 接続時は、本機の電源として AC アダプターを使うことをおすすめします。接続方法は「電源コンセントにつないで使う」と同じです。（P17）
- ダイレクトプリント終了後、USB 接続ケーブルと DC コードを抜いてください。

USB ダイレクトプリントする

[選択]

[準備]

- プリンターに接続する。(P90)
- 用紙サイズや印字品質などプリントの設定をする。(プリンターの取扱説明書をお読みください)

1　DPOF プリントが設定されている場合は、1 の画面が表示されます。
◀/▶ で [選択画像] を選び ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- DPOF プリントが設定されていない場合は、2 の画面が表示されます。

2　◀/▶ でプリントしたい画像を選び▼/[REVIEW/SET]ボタンを押す

- 約 2 秒間「プリントする画像を選んでください。」と表示されます。

3　プリント枚数を設定したい場合は、▲ を押し、◀/▶ でプリント枚数を設定し、▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

4　◀/▶ で [はい] を選ぶ

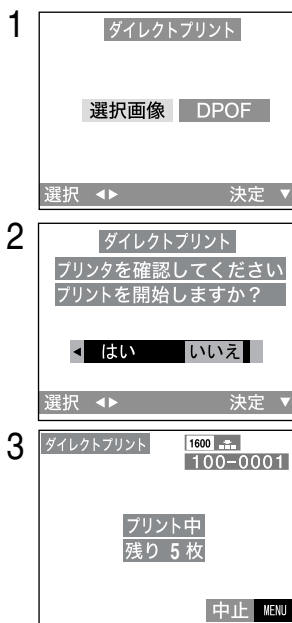
- 「プリンタを確認してくださいプリントを開始しますか？」と表示されます。

5　▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- 印刷が開始されます。

使いこなす

お願い/ヒント

- 途中で印刷を中止したい場合は [MENU] を押してください。

[DPOF]

[準備]

- プリンターに接続する。(P90)
- あらかじめカメラでDPOFプリントの設定をしておく。(P75)
- 用紙サイズや印字品質などプリントの設定をする。(プリンターの取扱説明書をお読みください)

1 DPOF プリントが設定されている場合は、この画面が表示されます。◀/▶ で [DPOF] を選ぶ

- [MENU]を押すとDPOFプリントの設定が変更できます。(P75)

2 ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

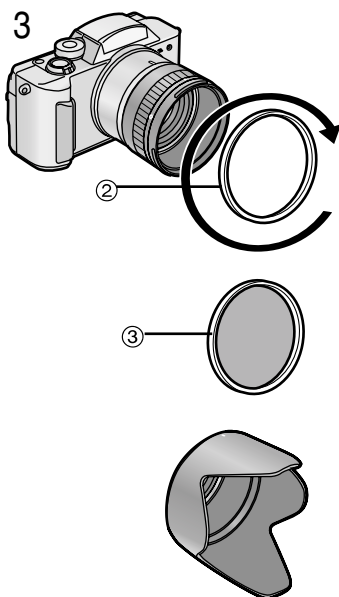
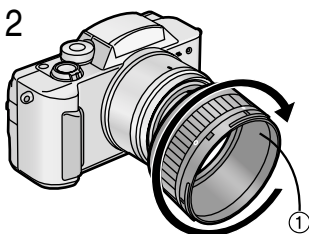
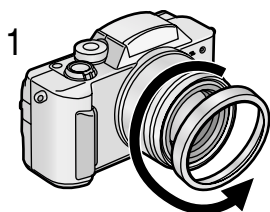
- 「プリンタを確認してくださいプリントを開始しますか？」と表示されます。

3 ◀/▶ で [はい] を選び ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押す

- 印刷が開始されます。

お願い/ヒント

- 途中で印刷を中止したい場合は [MENU] を押してください。
- 枚数表示が 255 以上になると、残り枚数が [ーーーー] で表示されます。

MC プロテクター/ND フィルターを付ける

別売の MC プロテクター(DMW-LMC55) は、色調や光量にほとんど変化を与えない透明なフィルターで、レンズ保護用として使うことができます。また、別売の ND フィルター(DMW-LND55) は、色調に変化を与えずに、光量だけを 1/8(3 絞り分)に減少させることができます。

[準備]
- 電源スイッチが [OFF]、レンズが収納されていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。(P35)

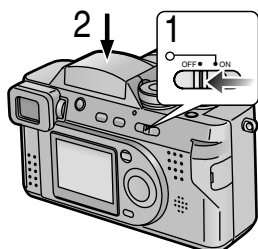
1 レンズリングを外す

2 付属のレンズフードアダプター ① を付ける

3 MC プロテクター ② または ND フィルター ③ を取り付ける

- MC プロテクターまたは ND フィルターを付けた状態でもレンズフード、レンズキャップを付けることができます。
- 斜めに取り付けるとレンズフードアダプター側のネジ部を傷めることがありますので、まっすぐ取り付けてください。

お願い/ヒント

- MCプロテクターやNDフィルターを付けたままでフラッシュを使用した場合は画面の下が暗く(ケラレ)なる場合があります。
- MCプロテクターやNDフィルターが落下した場合、壊れる恐れがあります。装着するときなどは、お気を付けください。

使い終わったら

デジタルカメラを使い終わったら、以下の手順で保管することをおすすめします。

1 電源スイッチを[OFF]にする
- レンズが収納されます。

2 フラッシュを閉じる（P35）

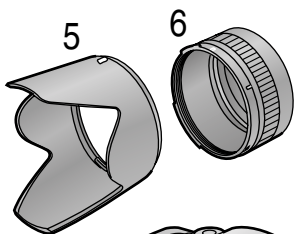
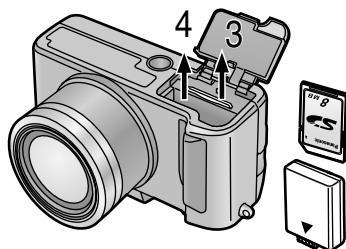
3 カードを取り出す（P18）

4 バッテリーを外す（P16）

5 レンズフードを外す

6 レンズフードアダプターを外す

7 レンズリングを付ける

8 レンズキャップを付ける（P21）

お願い/ヒント

- カメラを長期間使用しないときは、必ずバッテリーを取り出しておいてください。（バッテリーを再度入れたときは、時計を設定し直してください）
- 高温、多湿、油煙の多いところに長期間保管すると、レンズにカビが付いたり、つゆつきが起こったりする場合があります。
- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ほこりや化学薬品のないところに保管してください。
- 長期間の保存には密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れることをおすすめします。

液晶モニター/ファインダーの表示

液晶モニター/ファインダーの画面表示は、デジタルカメラの操作状態を示しています。

[撮影時]

1 撮影モード(P7)

2 フラッシュモード(P34)

3 ホワイトバランス(P48)

4 ISO 感度(P53)

5 記録画素数(P50)

6 クオリティ(圧縮率)(P51)

7 バッテリー残量(P15)

8 残り枚数 / 時間
動画時:×××秒

9 手ぶれ警告

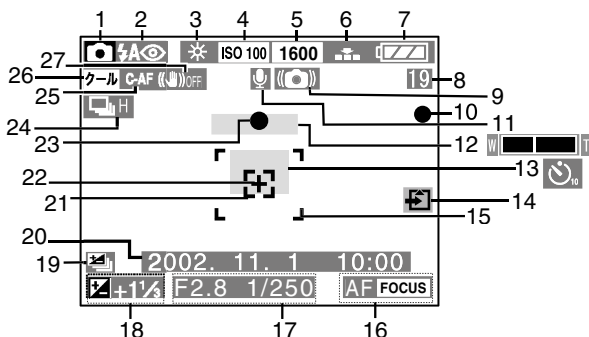
10 ●:記録動作表示

11 🎤:音声記録(P54)

12 ズーム(P33, P58)
(デジタルズーム設定時:[■])

13 セルフタイマーモード(P36)

14 カードアクセス表示(P19)

15 [ ]:AF エリア(P28)

16 AF駆動(FOCUS時のみ)(P56)

17 絞り表示(P28)/ シャッタースピード表示(P28)

18 露出補正(P62)

19 オートブラケット(P63)
:オート(AE)ブラケット

20 現在日時(P26)
起動時 / 時計設定後約 5 秒間表示します。

21 [ ]スポット AF エリア(P52)

22 +:スポット測光ターゲット(P52)

23 ●:フォーカス表示(P28)

24 連写(P37)

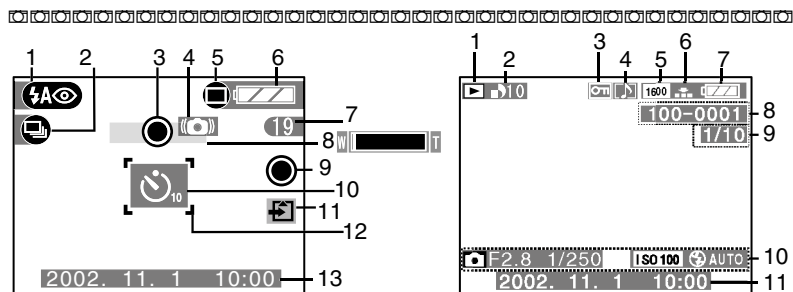
25 C-AF:AF 連続動作(P55)

26 カラーエフェクトモード(P59)

27 ((✋))OFF:手ぶれ補正 OFF 表示(P61)

使いこなす

その他

液晶モニター/ファインダーの表示(つづき)

[かんたんモード時]

1 フラッシュモード(P34)

2 連写(P37)

3 フォーカス表示(P28)

4 手ぶれ警告

5 画質設定(P38)

6 バッテリー残量(P15)

7 残り枚数

8 ズーム(P33)

9 記録動作表示

10 セルフタイマーモード(P36)

11 カードアクセス表示(P19)

12 AF エリア(P28)

13 日時(P26)
起動時/時計設定後約5秒間表示します。

[再生時]

1 :再生モード

2 DPOF[ ]プリント枚数(P75)
(白):プリント設定済み
(緑):スライドショー設定済み
(緑)(プリント枚数付き):プリント / スライドショーともに設定済み

3 :プロテクト画像(P72)

4 : 音声付き画像(P65)

5 撮影記録画素数(P50)

6 撮影クオリティ(圧縮率)(P51)
:動画時
かんたんモード時
:引き伸ばし
:サービス版
:インターネット

7 バッテリー残量(P15)

8 フォルダー/ファイル番号

9 ページ/トータル枚数

10 撮影情報
[DISPLAY]ボタンを押すと表示します。

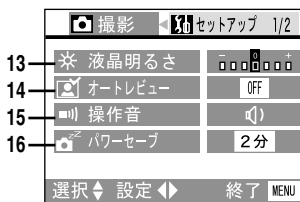
11 撮影日時

メニュー画面の表示

撮影系メニュー画面

1　ホワイトバランス(P48)
2　記録画素数(P50)
3　クオリティ(P51)
4　スポットモード(P52)

5　ISO 感度(P53)
6　音声記録(P54)
7　AF 連続動作(P55)
8　AF 駆動(P56)

9　デジタルズーム(P58)
10 カラーエフェクト(P59)
11 画質調整(P60)
12 手ぶれ補正(P61)

13 液晶明るさ(P25)
　 ファインダー明るさ(P25)
　 ●表示されている側(液晶またはファインダー)の項目が表示されます。
14 オートレビュー(P25)
15 操作音(P25)
16 パワーセーブ(P25)
17 番号リセット(P25)
18 設定リセット(P25)
19 時計設定(P26)
20 言語設定(P25)

メニュー画面の表示(つづき)

かんたんモードメニュー画面

●下図に番号記載のない項目は、撮影系メニューの同名のものを参照してください。

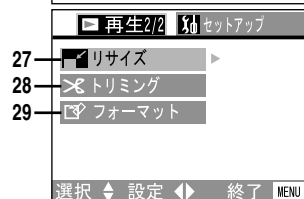
21 画質設定(P38)

再生系メニュー画面

●下図に番号記載のない項目は、撮影系メニューの同名のものを参照してください。

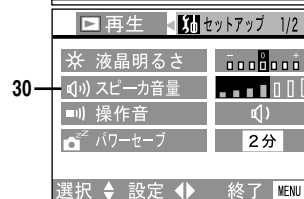
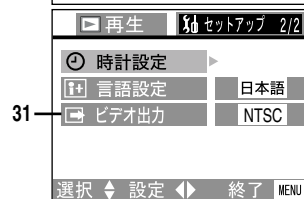
再生1/2 セットアップ
22 プロテクト
23 DPOFプリント
24 スライドショー
25 アフレコ
26 携帯画像
選択 設定 終了 MENU

22 プロテクト(P72)
23 DPOF プリント(P75)
24 スライドショー(P78)
25 アフレコ(P80)
26 携帯画像(P82)

再生2/2 セットアップ
27 リサイズ
28 トリミング
29 フォーマット
選択 設定 終了 MENU

27 リサイズ(P84)
28 トリミング(P85)
29 フォーマット(P87)

再生 セットアップ 1/2
液晶明るさ
30 スピーカ音量
操作音
パワーセーブ 2分
選択 設定 終了 MENU

30 スピーカ音量(P25)

再生 セットアップ 2/2
時計設定
言語設定 日本語
31 ビデオ出力 NTSC
選択 設定 終了 MENU

31 ビデオ出力(P25,P88)

⚠警告

自動車など、乗り物を運転しながら使わない

事故の誘発につながります。

●歩きながら使うときも、周囲の状況、路面の状態などに十分ご注意ください。

雷が鳴り出したら、本機の金属部やACアダプターなどの電源プラグに触れない

落雷すると、感電につながります。

煙が出ている、異常に熱い・におい・音がするときなどは、使うのをやめ、電源プラグを抜く

内部に水や異物などが入ったときや外装ケースが破損したときは、使うのをやめ、電源プラグを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。

●販売店にご相談ください。

安全上のご注意（警告・注意） 必ずお守りください

⚠警告

フラッシュの発光部分を手で触らない

接触禁止

フラッシュの発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因となります。

不安定な状態で使わない

禁　止

転落すると、死亡や大けがにつながります。

●安定した足場、安定した体勢を確保してください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電につながります。

●必ず、乾いた手で持ってください。

内部に金属物や燃えやすいものなどを入れない

禁　止

火災・感電・故障につながります。

●乳幼児にご注意ください。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところに置かない

禁　止

落下すると、けがや製品の故障につながります。

⚠警告

分解や改造をしない

分解禁止

火災・感電・故障につながります。

●修理や内部の点検は、販売店にご相談ください。

●お手入れ時、または部品の取り外しや取り付けなどが必要な場合は、説明書の指示に従ってください。

交流100ボルト～240ボルト以外では使わない また、配線器具の仕様をこえる使いかたをしない

禁　止

たこ足配線などの場合も、過電流で発熱し、火災・故障につながります。

SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かない

禁　止

誤って飲み込む恐れがあります。

●万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

その他

安全上のご注意（警告・注意） 必ずお守りください

⚠警告

水をかけたり、ぬらしたりしない

内部に水が入ると、火災・感電・故障につながります。

- 水が入ったときは、販売店にご相談ください。
- 雨天、降雪中、海岸、水辺など、水がかかりやすいところで使うときは、ぬらさないようにご注意ください。

電源コードやプラグを破損させない

無理なねじり、引っ張り、加工、重いものの下敷きなどは、コードの破損の原因となり、火災・感電につながります。

- 破損したときは、使うのをやめ、販売店にご相 談ください。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる

湿気などでショートや絶縁不良となり、火災・感電につながります。

- プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- プラグは時々点検してください。

電源プラグは、根元までしっかりと差し込む

接触不良で火災・感電につながります。

- いたんだプラグやゆるんだコンセントは、使わないでください。
- 電源プラグは時々点検してください。

⚠注意

ケーブルを持って抜かない ケーブルを無理に曲げたり、引っ張ったりしない

ケーブルや機器の破損の原因となります。

- 必ず、プラグ部分を持って、まっすぐ抜いてください。

USB接続ケーブルはUSB端子以外には装着しない

ケーブルや機器の破損の原因となります。

- 必ず、USB接続ケーブルを装着する前に、使用機器の端子がUSB用であることを確認してください。

フラッシュ発光中に近くで発光部を直接見ない

強い光により、目をいためるおそれがあります。

レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災のおそれがあります。

⚠注意

高温になるところに放置しない

特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温（約60℃以上）になります。デジタルカメラ、バッテリーなどを絶対に放置しないでください。熱で外装が変形し内部部品が破損すると火災・感電のおそれがあります。

指定以外の電池を使わない

指定以外の電池を使うと、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない

重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

⚠注意

電源コードを持って抜かない

禁　止

コード破損の原因となり、火災・感電のおそれがあります。

●必ず、電源プラグを持ってください。

充電中や使用中は、機器の上に布などをかぶせない

禁　止

熱で外装ケースが変形し内部が発熱すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多いところ、振動が激しいところでは使わない

禁　止

水やほこりが入ったり、振動などで内部部品が損傷すると火災・感電のおそれがあります。

●3年に一度ぐらいは、販売店に点検をご相談ください。
（特に湿度が高くなる梅雨期の前に点検をすると、効果的です）
●費用についても、そのときお確かめください。

⚠注意

お手入れの際や長期間使わないときは、安全のため、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

誤って内部に触れると、感電するおそれがあります。また、通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより、火災につながるおそれがあります。（カード保護のため、カードも取り出しておいてください）

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を及ぼすおそれがあります。

●病院などで使うときも、病院の指示に従ってください。

使用上のお願い

デジタルカメラについて

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ(電子レンジ、テレビやゲーム機など)からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響をおよぼし、画像や音声が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーや AC アダプターを一度外してから、あらためて接続し電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像や音声が悪くなることがあります。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

浜辺など砂やほこりの多いところで使うときは、内部や端子部に砂やほこりが入らないようにするまた海水などでぬらさないようにする

- 砂やほこりは、本機の故障につながります。
- 万一海水がかかったときは、よく絞った布でふき、そのあと、乾いた布でふいてください。

本機を持ち運びするときは、落としたり、ぶつけたりしない

- 強い衝撃が加わると、外装ケースがこわれ、故障します。

お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤を使わない

- お手入れの際は、バッテリーを外す、または電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
- 溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
- 本機は、柔らかい、乾いた布でほこりをふいてください。汚れがひどいときは、台所用中性洗剤を水でうすめ、布をひたし、よく絞って汚れをふき、乾いた布で仕上げてください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。
- 万一雨水や水滴がかかったときは、よく絞った布でふき、そのあと、乾いた布でふいてください。

使用上のお願い(つづき)

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを外す

- 付けたままにしておくと、デジタルカメラの電源スイッチが[OFF]であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- 使用したい時間の３〜４倍のバッテリーを準備してください。スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなります。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるように付属の AC アダプターも忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要な場合があります。(P111)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本体に付けると、本体をいためます。

使用後は必ずカードを取り出し、バッテリーを外す、または、電源プラグをコンセントから抜く

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
(推奨温度：１５℃〜２５℃、推奨湿度：４０％〜６０％です)
- 極端に低温、高温になるところで保管すると、バッテリーの寿命が短くなることがあります。
- 高温･多湿、油煙の多いところでは、端子がさびたりして故障の原因となります。
- 長期間保管する場合、１年に１回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、カメラから取り外して再保管することをおすすめします。

不要(寿命になったなど)バッテリーは火中などに投入しない

- 加熱や火中などに投入すると、破裂するおそれがあります。
- バッテリーには、寿命があります。

不要になった電池(バッテリー)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池(バッテリー)の届け先

- 下記の充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。
- お買い上げの販売店または最寄りの松下電器の販売店･サービスセンター･販売会社へ。もしくは(社)電池工業会にご確認ください。
(ホームページ:http://www.baj.or.jp)

使用済み充電式電池(バッテリー)の取り扱い

- 端子部をセロハンテープなどでおおい、リサイクル箱へ
- 分解しないでリサイクル箱へ

リチウムイオン
電池使用

AC アダプターについて

- ラジオ(特に AM 受信中)の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は 1 m 以上離してください。
- 使用中、AC アダプターの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてください。(接続したままにしておくと、最大約 0.9 W の電力を消費しています)
- ACアダプターの端子部を汚さないでください。

機器を電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)へ容易に手が届くようにしてください。

つゆつきについて

夏に冷蔵庫から出したビンなどに、しばらくすると水滴がつきます。この現象が本機に起こった場合が「つゆつき」です。
つゆつきが起こっていると撮影できなくなります。つゆつきを起こさない心がけと、起こったときの処置を正しく守ってください。

つゆつきが起こる原因は

下記のように温度差、湿度差があると起こります。

- 寒い屋外から暖かい屋内に持ち込んだとき
- 車外から冷房の効いた車などに持ち込んだとき
- 寒い部屋を急に暖房したとき
- エアコンなどの冷風がデジタルカメラに直接当たっていたとき
- 湿気がたち込めるなど湿度の高いところ

つゆつきが起こった場合の処置

- 電源スイッチを [OFF] にし、1 時間ほどそのままにしておいてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。
- デジタルカメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、デジタルカメラをビニール袋に入れ、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

メモリーカードについて

カードアクセス表示が点灯中(カードにアクセス中)は、メモリーカード / バッテリー扉を開けてカードを抜いたり、電源を切らない、また振動や衝撃を与えない
カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない
また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊されるおそれがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失するおそれがあります。

使用後は、必ずカードを取り出して、保管する

- 使用後や保管、持ち運び時は収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 「しばらくお待ちください」と表示されているときは絶対に、バッテリーを取り外したり、付属の AC アダプターを抜いたり、メモリーカードを取り出したりしないでください。データの破壊および、故障の原因になります。

使用上のお願い(つづき)

液晶モニター/ ファインダーについて

- 温度差が激しい場所では、液晶モニターにつゆが付くことがあります。柔らかい乾いた布でふいてください。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本体が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニター/ファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

- 液晶モニター/ ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯(赤や青、緑の点)することがあります。これは故障ではありません。液晶モニター/ ファインダーの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが 0.01%以下で画素欠けするものがあります。

内蔵フラッシュについて

- 使用しないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- 本体を保管するときは、必ず電源スイッチを [OFF] にして、フラッシュを閉じておいてください。

三脚について

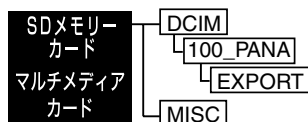
市販のカメラ用三脚を使うと、シャッタースピードが遅いときや、望遠で撮影するときでも手ぶれのない安定した撮影ができます。

- 三脚使用時は、カードやバッテリーは取り出せません。
- 三脚の説明書もよくお読みください。

SD スライドショーについて

付属の CD-ROM のソフトウェア「SD Viewer for DSC」で編集された SD スライドショーのデータが記録されているカードを本機に入れ、再生モードで電源を入れると、「SD スライドショーを開始しますか？」というメッセージが出ます。「はい」を選んで ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押すと、SD スライドショーが始まります。通常再生にするときは「いいえ」を選んで ▼/[REVIEW/SET] ボタンを押してください。

フォルダー構造について

データを記録したカードをパソコンに入れると、フォルダーが下図のように表示されます。

- 100_PANA フォルダーなどには最大で 999 枚の画像を記録できます。
- MISCフォルダーにはDPOF設定されたファイルが記録されます。
- EXPORT フォルダーには携帯画像のファイルが記録されます。

海外で使う

撮ったものを海外で見るには

再生系メニュー画面から［ ビデオ出力 ］を選び、設定すると、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国･地域と、PAL 方式を採用している国･地域でテレビに接続して見ることができます。

日本と同じ NTSC 方式を採用している国、地域

- アメリカ合衆国
- アンチグア･バーブーダ
- イエメン（一部地域）
- 英領バーミューダ諸島
- エクアドル
- エルサルバドル
- ガイアナ
- カナダ
- キューバ
- グァテマラ
- グァム島
- グレナダ
- コスタリカ
- コロンビア
- ジャマイカ
- スリナム
- セントクリストファー･ネイビス
- セントビンセント･グレナディーン諸島
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ共和国
- ドミニカ国
- トリニダード･トバゴ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バハマ
- バルバドス
- フィジー
- フィリピン
- プエルトリコ
- 米領サモア
- ベトナム（一部地域）
- ベネズエラ
- ベリーズ
- ペルー
- ボリビア
- ホンジュラス
- マーシャル諸島
- マリアナ諸島
- ミクロネシア連邦
- ミャンマー
- メキシコ

AC アダプターは、全世界の電源電圧（100 V 〜 240 V）、電源周波数（50 Hz、60 Hz）でご使用いただけるように設計しております。市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがあります。

付属の AC アダプターを海外で使用するには

AC アダプターは、自動で全世界の電源電圧（100 V〜240 V）、電源周波数（50 Hz、60Hz）に切り換わるように設計されています。ただし、国、地域、滞在先によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、次のページの表を参考に電源コンセントの形状を確かめ、その国、地域、滞在先に合ったプラグを準備してください。変換プラグは、お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。充電のしかたは、国内と同じです。

その他

海外で使う(つづき)

主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米					
カナダ	A	アメリカ合衆国	A		
ヨーロッパ・旧ソ連地域					
アイスランド	C	ノルウェー	C	アイルランド	C
ハンガリー	C	イギリス	B.BF	フィンランド	C
イタリア	C	フランス	C	オーストリア	C
ベルギー	C	ギリシャ	C	ポーランド	B.C
オランダ	C	ポルトガル	B.C	スイス	B.C
ルーマニア	C	スウェーデン	C	ロシア	C
スペイン	A.C	ウクライナ	C	デンマーク	C
ベラルーシ	C	ドイツ	C	カザフスタン	C
アジア					
インド	B.C	モルジブ	B	インドネシア	B.C
バングラデシュ	C	シンガポール	B.BF	フィリピン	A.C.S
タイ	A.BF.C	ベトナム	A.C	大韓民国	A.B.C
中華人民共和国	A.B.BF.C.S	スリランカ	B	マカオ特別行政区	B.C
香港特別行政区	B.BF	マレーシア	B.BF.C	ネパール	C
モンゴル	C	パキスタン	B.C	台湾	A
オセアニア					
オーストラリア	S	トンガ	S	グァム島	A
ニュージーランド	S	タヒチ	C	フィジー	S
中南米					
アルゼンチン	BF.C.S	バハマ	A	コロンビア	A
プエルトリコ	A	ジャマイカ	A	ブラジル	A.C
チリ	B.C	ベネズエラ	A	ハイチ	A
ペルー	A.C	パナマ	A	メキシコ	A
中東					
イスラエル	C	クウェート	B.C	イラン	C
ヨルダン	B.BF				
アフリカ					
アルジェリア	A.B.BF	ザンビア	B.BF	エジプト	B.BF.C
タンザニア	B.BF	カナリア諸島	C	南アフリカ共和国	B.C
ギニア	C	モザンビーク	C	ケニア	B.C
モロッコ	C				

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
変換プラグ	不要です				

警告表示

確認 / 警告内容を液晶モニターに文章で表示します。

- **メモリーカードがありません**
  メモリーカードを入れてください。
- **このメモリーカードはプロテクトされています**
  メモリーカードの書き込み禁止スイッチのロックを解除してください。
- **表示できる画像がありません**
  画像を記録する、または画像が記録されたメモリーカードを入れてから再生してください。
- **メモリーカード残量がありません**
- **メモリーカード残量が不足しています**
  新しいカードに取り替える、または不要なデータを削除してください。
- **レンズキャップを外して ▼ を押して下さい**
  レンズキャップを外し、▼/[REVIEW/SET] ボタンを押してください。
- **メモリーカードエラー**
  メモリーカードへのアクセスに失敗しました。もう一度カードを入れてください。
- **リードエラー**
  データの読み込みに失敗しました。もう一度再生してください。
- **ライトエラー**
  データの書き込みに失敗しました。カードを抜くか、一度電源を [OFF] にしてから、再度 [ON] にして記録してください。またはカードが破壊されている可能性があります。
- **フラッシュを閉じてください**
  使い終わったら必ずフラッシュを閉じてください。
- **モードダイヤルがずれています**
  モードダイヤルの位置がずれたまま電源スイッチを [ON] にしています。
  モードダイヤルの位置を正しく合わせてください。
- **時計を設定して下さい**
  お買い上げ時や長期間保管していた場合などに表示されます。再度時計設定をしてください。
- **この画像はプロテクトされています**
  画像のプロテクトを解除してから削除や上書きをしてください。
- **削除できない画像があります**
- **この画像は削除できません**
  DCF 規格に準拠していない画像は削除できません。
- **設定枚数をこえました**
  複数削除、プロテクト、DPOF プリント設定で 1 度に設定できる枚数を超えています。一旦決定してから、再度続いている設定をしてください。
- **この画像には設定できません**
- **設定できない画像があります**
  DCF 規格に準拠していない画像は DPOF 設定できません。
- **メモリーカードエラー・フォーマットしますか**
  本機では認識できないフォーマットです。本機でフォーマットし直してください。

故障かな？と思ったら

1:　電源が入らない。

1-1: バッテリーやACアダプターは正しく接続されていますか？接続を確認してみてください。

1-2: バッテリーは十分に充電されていますか？十分に充電されたバッテリーをお使いください。

2:　電源が入っていてもすぐに切れる。

2-1: バッテリーが消耗していませんか？バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを入れてください。

2-2: つゆつきになっていませんか？寒いところから暖かいところにデジタルカメラを持ち込んだときなど、内部につゆつきが発生することがあります。つゆつきがなくなるまでお待ちください。

3:　画像が撮れない。

3-1: メモリーカードが入っていますか？

3-2: モードダイヤルは正しいモードに設定されていますか？

3-3: カードのメモリー残量はありますか？撮影する前にいくつかの画像を削除してください。

4:　液晶モニターに画像が出ない。

4:　ファインダー表示になっていませんか？［DISPLAY］ボタンを数回押して液晶表示に切り換えてください。

5:　液晶モニター / ファインダーが明るすぎたり、暗すぎる。

5:　液晶モニター / ファインダーの明るさを正しく調整してください。

6:　内蔵フラッシュが発光しない。

6:　フラッシュを閉じていませんか？ [⚡ OPEN] ボタンを押してフラッシュを開いてください。

7:　液晶モニター / ファインダーの表示、または画像がフォーカスされない。

7:　モードダイヤルを回して、被写体までの距離に応じたモードにする。

8:　再生できない。

8-1: メモリーカードが入っていますか？

8-2: メモリーカードに再生できる画像はありますか？

8-3: モードダイヤルは再生 [▶] に設定されていますか？

9:　テレビに画像が出ない。

9-1: テレビと正しく接続されていますか？確認してください。

9-2: テレビはビデオ入力モードに設定してください。

10:　パソコンに接続して画像を転送できない。

10-1: パソコンと正しく接続されていますか？確認してください。

10-2: パソコンがカメラを正常に認識していますか？

11:　時計が合っていない。

11-1: 本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。「時計を設定して下さい」の警告が出ますので、再度時計の設定をしてください。

11-2: 時計設定をしない状態で撮影すると、[0. 0. 0　0:00] の日付が記録されます。

仕様

電源	DC 8.4 V
消費電力	2.6 W（液晶撮影時） 2.4 W（ファインダー撮影時） 2.4 W（液晶再生時） 2.2 W（ファインダー再生時）

カメラ有効画素数	200 万画素
撮像素子	1/3.2 型 CCD　総画素数 211 万画素、 原色フィルター
レンズ	光学 12 倍ズーム f=4.6-55.2 mm（35 mm フィルムカメラ換算：35-420 mm）/F2.8
デジタルズーム	単写：3 倍　連写：2 倍
フォーカス	コントラスト検出　オート / マクロ スポット AF（スポットモード）
撮影範囲	通常：30 cm（W 端時）/120 cm（T 端時）- ∞、 マクロ / かんたんモード時：5 cm（W 端時）/ 120 cm（T 端時）- ∞
シャッターシステム	電子シャッター連動メカニカルシャッター
連写撮影	4 コマ / 秒　最大 7 コマ（スタンダード）/ 最大 4 コマ（ファイン）
動画撮影	320 × 240 画素、10 コマ / 秒　音声付き
ISO 感度	オート /50/100/200/400
シャッタースピード	8-1/2,000 秒 動画：1/30-1/2,000 秒
ホワイトバランス	オート / 晴天 / 曇り / 白熱灯 / セットモード
露出	オート 露出補正（1/3EV ステップ、-2 〜 +2EV）
測光方式	評価測光 / スポット測光（スポットモード）
液晶モニター	1.5型低温ポリシリコンTFT液晶（11.4万画素）
ファインダー	カラー電子ファインダー（11.4 万画素） （視度調整付き -4 〜 +4dioptor）
フラッシュ	内蔵ポップアップ式 撮影範囲（ISO100時）：W端時：約30 cm〜2.1 m/ T 端時：約 120 cm 〜 2.1 m オート / 赤目軽減オート / 強制発光 / 赤目軽減 スローシンクロ / 発光禁止

仕様(つづき)

マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
記録メディア	SD メモリーカード／マルチメディアカード
記録画素数	1600 × 1200/1280 × 960/640 × 480/(静止画) 320 × 240(動画)
クオリティ(圧縮率)	ファイン / スタンダード
記録画像ファイル形式	
静止画	JPEG(DCF 準拠、Exif2.2 準拠)、DPOF 対応
音声付き静止画	JPEG(DCF 準拠、Exif2.2 準拠)+640 × 480 画素 QuickTime Motion JPEG(音声付き静止画)
動画	QuickTime Motion JPEG(音声付き動画)
インターフェース	
デジタル	USB/SERIAL(携帯電話 / feel H"(H")接続用)
アナログビデオ / オーディオ	NTSC/PAL コンポジット(メニュー切り替え)/ オーディオライン出力(モノラル)
端子	
SERIAL	8 ピンジャック
USB	5pin Mini USB
アナログビデオ / オーディオ	Φ2.5 mm ジャック
DC IN	EIAJ タイプ 3 ジャック
寸法(幅 × 高さ × 奥行)	114 × 70.3 × 83.3 mm(突起部除く)
質量	約 318 g(本体) 約 350 g(メモリーカード、バッテリー含む)
推奨使用温度	0 ℃～ 40 ℃
許容相対湿度	10% ～ 80%

専用バッテリーチャージャー/AC アダプター: DE-928A

定格出力	DC 8.4 V 1.2 A(デジタルカメラ時) DC 8.4 V 0.65 A(充電時)
定格入力	AC100-240 V 50/60 Hz
入力容量	25 VA(100 V)、35 VA(240 V)

リチウムイオンバッテリーパック : DMW-BM7

電圧 / 容量	7.2 V, 680 mAh

さくいん

その他

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間 ：お買い上げ日から本体１年間

「本体」にはソフトウェアの内容は含みません

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このデジタルカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容	
品　名	デジタルカメラ
品　番	DMC-FZ1
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書をそえてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●修理料金の仕組み
修理料金 は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 0120-878-365（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan

〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉

Tokyo (03) 3256 - 5444　**Osaka** (06) 6645 - 8787

Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

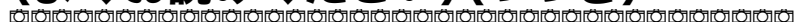
ナビダイヤル（全国共通番号）　**0570-087-087**

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

北海道地区					
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎ (011)894-1251	**帯広**	帯広市西19条南1丁目7-11 ☎ (0155)33-8477	**函館**	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎ (0138)48-6631
旭川	旭川市2条通21丁目左1号 ☎ (0166)31-6151				

その他

保証とアフターサービス（よくお読みください）（つづき）

ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

東北地区

青森	青森市第二問屋町3-7-10 ☎ (017)739-9712	岩手	盛岡市羽場13地割30-3 ☎ (019)639-5120	山形	山形市流通センター3丁目12-2 ☎ (023)641-8100
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎ (018)826-1600	宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎ (022)387-1117	福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65 ☎ (0243)34-1301

首都圏地区

栃木	宇都宮市御幸町194-20 ☎ (028)689-2555	埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2 ☎ (048)728-8960	山梨	甲府市下飯田2丁目1-27 ☎ (055)222-5171
群馬	高崎市大沢町229-1 ☎ (027)352-1109	千葉	千葉市中央区星久喜町172 ☎ (043)208-6011	神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎ (045)847-9720
水戸	水戸市柳河町309-2 ☎ (029)225-0249	東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎ (03)5477-9780	新潟	新潟市東明1丁目8-14 ☎ (025)286-0171
つくば	つくば市花畑2丁目8-1 ☎ (0298)64-8756				

中部地区

石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎ (076)294-2683	長野	松本市大字笹賀7600-7 ☎ (0263)86-9209	岡崎	岡崎市岡町南久保28 ☎ (0564)55-5719
富山	富山市寺島1298 ☎ (076)432-8705	静岡	静岡市西島765 ☎ (054)287-9000	岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎ (058)323-6010
福井	福井市開発4丁目112 ☎ (0776)54-5606	名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎ (052)819-0225	高山	高山市花岡町3丁目82 ☎ (0577)33-0613
				三重	久居市森町字北谷1920-3 ☎ (059)255-1380

近畿地区

滋賀	守山市勝部6丁目2-1 ☎ (077)582-5021	大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎ (06)6359-6225	和歌山	和歌山市中島499-1 ☎ (073)475-2984
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4 ☎ (075)672-9636	奈良	大和郡山市椎木町404-2 ☎ (0743)59-2770	兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎ (078)272-6645

ナショナル／パナソニック 修理ご相談窓口

中国地区

鳥取	鳥取市安長295-1 ☎ (0857)26-9695	出雲	出雲市渡橋町416 ☎ (0853)21-3133	広島	広島市西区南観音 8丁目13-20 ☎ (082)295-5011
米子	米子市米原4丁目 2-33 ☎ (0859)34-2129	浜田	浜田市下府町 327-93 ☎ (0855)22-6629	山口	山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北 447-23 ☎ (083)986-4050
松江	松江市平成町 182番地14 ☎ (0852)23-1128	岡山	岡山県都窪郡早島町 矢尾807 ☎ (086)292-1162		

四国地区

香川	高松市勅使町152-2 ☎ (087)868-9477	高知	南国市岡豊町中島 331-1 ☎ (088)866-3142	愛媛	松山市土居田町 750-2 ☎ (089)971-2144
徳島	徳島県板野郡北島町 鯛浜字かや108 ☎ (088)698-1125				

九州地区

福岡	春日市春日公園 3丁目48 ☎ (092)593-9036	大分	大分市萩原4丁目 8-35 ☎ (097)556-3815	天草	本渡市港町18-11 ☎ (0969)22-3125
佐賀	佐賀市鍋島町大字 八戸字上深町3044 ☎ (0952)26-9151	宮崎	宮崎県宮崎郡清武町 下加納366-2 ☎ (0985)85-6530	鹿児島	鹿児島市与次郎 1丁目5-33 ☎ (099)250-5657
長崎	長崎市東町1949-1 ☎ (095)830-1658	熊本	熊本市健軍本町12-3 ☎ (096)367-6067	大島	名瀬市長浜町10-1 ☎ (0997)53-5101

沖縄地区

沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎ (098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0902

その他

TM

この取扱説明書の印刷には、植物性
大豆油インキを使用しています。

「この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。」

QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTimeは米国および他の国々で登録された商標です。

愛情点検　**長年ご使用のデジタルカメラの点検を！**

こんな症状はありませんか	・電源コードやプラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水や異物が入った ・映像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

▼

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	DMC-FZ1
販　売　店　名	☎（　　）		
お客様ご相談窓口	☎（　　）		

松下電器産業株式会社
AVCネットワーク事業グループ
〒571－8505　大阪府門真市松生町1番4号
システム事業グループ
〒571－8503　大阪府門真市松葉町2番15号

F1002Fa1102(15000Ⓑ)

Panasonic　デジタルカメラ　DMC-FZ1　取扱説明書